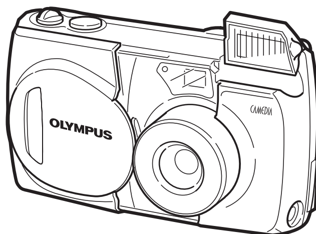
OLYMPUS

CAMEDIA

デジタルカメラ

C-300 ZOOM

取扱説明書



- このたびは、オリンパス製品をお買い上げいただきまして、誠にありがとうございます。
- ご使用前にこの取扱説明書をよくお読みになり、試し撮りをしてカメラが正常に機能することをお確かめください。

はじめに

このたびはオリンパス デジタルカメラをお買上げいただき、ありがとうございます。この説明書をよくお読みのうえ、安全に正しくお使いください。また、お読みになったあとは、必ず保管してください。

- 本書の内容については将来予告なしに変更することがあります。商品名、型番等、最新の情報についてはカスタマーサポートセンターまでお問い合わせください。
- 本書の内容については、万全を期して作成しておりますが、万一ご不審な点、誤り、記載もれなど、お気づきの点がございましたらカスタマーサポートセンターまでご連絡ください。
- 本書の内容の一部または全部を無断で複写することは、個人としてご利用になる場合を除き、禁止されています。また、無断転載は固くお断りします。
- 本製品の不適当な使用により、万一損害が生じたり、逸失利益、または第三者からのいかなる請求に関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品の故障、当社指定外の第三者による修理、その他の理由により生じた画像データの消失による、損害および逸失利益などに関し、当社では一切その責任を負いかねますのでご了承ください。
- 本製品で撮影された画像の質は、通常のフィルム式カメラの写真の質とは異なります。

電波障害自主規制について

この装置は、情報処理装置等電波障害自主規制協議会（VCCI ）の基準に基づくクラスB 情報技術装置です。この装置は、家庭環境で使用することを目的としていますが、この装置がラジオやテレビジョン受信機に近接して使用されると、受信障害を引き起こすことがあります。
取扱説明書に従って正しい取り扱いをしてください。
飛行機内では、離発着時のご使用をお避けください。
本製品の接続の際、当製品指定のケーブルを使用しない場合、VCCI基準の限界値を超えることが考えられます。必ず、指定のケーブルをご使用ください。

商標について

Windowsは米国Microsoft Corporationの登録商標です。
MacintoshおよびAppleは米国アップルコンピュータ社の登録商標です。
その他本説明書に記載されているすべてのブランド名または商品名は、それらの所有者の商標または登録商標です。

カメラファイルシステム規格について

カメラファイルシステム規格とは、電子情報技術産業協会（JEITA）で制定された規格「Design rule for Camera File system/DCF 」です。

INDEX

もくじ　Contents 4

第3章　撮影の応用　62

第4章　画像・画質・露出の調整　73

第5章　再生　88

●本書の表記について

注意	故障やトラブルになるような、重要な注意事項が書かれています。絶対に避けていただきたい操作も書かれています。
メモ	活用するために、知っておくと便利なことや役に立つ情報などが書かれています。
☞	本書での参照先のページを表します。

ご使用の前に、この内容ををよくお読みのうえ、製品を安全にお使いください。

安全にお使いいただくために

製品を正しくお使いいただき、お客様や他の人々への危害と財産の損害を未然に防止するために、いろいろな絵表示をしています。その表示と意味は次のようになっています。

⚠ 危険	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う差し迫った危険の発生が想定される内容を示しています。
⚠ 警告	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定される内容を示しています。
⚠ 注意	この表示を無視して誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性が想定される内容および物的損害のみの発生が想定される内容を示しています。

製品の取り扱いについてのご注意

⚠ 警告

● **可燃性ガス、爆発性ガス等がある場所では使用しない**。これらのガスが、大気中に存在するおそれのある場所での本製品の使用はおやめください。引火・爆発の原因となります。

● **フラッシュを人（特に乳幼児）に向けて至近距離で使用しない。**目に近づけて撮影すると、視力障害をきたすおそれがあります。特に乳幼児に対して、至近距離で撮影しないでください。

● **幼児、子供の手の届く場所に置かない。**以下のような事故発生のおそれがあります。
- 誤ってストラップを首に巻き付け、窒息を起こす。
- 電池や小さな付属品を飲み込む。万一飲み込んだ場合は直ちに医師にご相談ください。
- 目の前でフラッシュが発光し、視力障害を起こす。
- カメラの動作部でけがをする。

● **カメラで日光や強い光を見ない。**視力障害をきたすおそれがあります。

● **通電中の充電器、充電中の電池に長時間触れない。**充電中の充電器や電池は温度が高くなります。また、別売のACアダプタをご使用時も長時間お使いになっていると、本体の温度が高くなります。長時間、皮膚が触れたままになっていると、低温やけどの原因となることがあります。

● **ほこりや湿気、油煙、湯気の多い場所で長時間使ったり、保管しない。**火災や感電の原因となることがあります。

- **フラッシュの発光部分を手で覆ったまま発光しない。**連続発光後も発光部分に手を触れないでください。やけどのおそれがあります。
- **分解や改造をしない。**感電やけがをする原因となります。
- **内部に水や異物を入れない。**万一、水に落としたり、内部に水が入ったりしたときは、火災や感電の原因になりますので、すぐに電源を切り電池を抜き、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。

⚠ 注意

- **異臭、異常音、煙が出たりするなどの異常が生じたときは使用をやめる。**このようなときは、やけどに注意しながらすぐに電池を取り外し、販売店または当社サービスステーションにご連絡ください。火災や、やけどの原因となります。（電池を取り出す際は、素手で電池を触らないでください。また、可燃物のそばを避け、屋外で行ってください。）
- **濡れた手で操作しない。**感電の危険があります。またACアダプタの抜き差しは、濡れた手では絶対にしないでください。
- **持ち運びのときは、ストラップが引っかからないよう注意する。**カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- **温度の高い所へ放置しない。**部品が劣化したり、火災の原因となります。
- **専用のACアダプタ以外は使用しない。**カメラ本体または電源が故障したり、思わぬ事故がおきる可能性があります。また別売のACアダプタは日本国内用です。海外ではご使用になれません。専用以外のACアダプタの使用により生じた傷害は保証しかねますので、あらかじめご了承ください。
- **ACアダプタのコードを傷つけない**。ACアダプタのコードを引っ張ったり、継ぎ足したりは絶対にしないでください。必ず電源プラグを持って、抜き差しを行ってください。
  以下の場合はただちに使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。
  - 電源プラグやコードが熱い、焦げ臭い、煙が出た場合。
  - ACアダプタのコードに傷、断線、または電源プラグに接触不良があった場合。

使用条件についてのご注意

- 本製品には精密な電子部品が組み込まれています。本製品を使用または保管する場合、以下のような場所で長時間使用したり放置すると動作不良や故障の原因となる可能性がありますので、避けてください。
  - 高温多湿、または温度・湿度変化の激しい場所
    直射日光下や夏の海岸、窓を閉め切った自動車の中、冷暖房器、加湿器のそばなど
  - 砂、ほこり、ちりの多い場所
  - 火気のある場所
  - 水に濡れやすい場所
  - 激しい振動のある場所
- カメラを落としたりぶつけたりして、強い振動やショックを与えないでください。
- レンズを直射日光に向けて撮影または放置しないでください。CCD※の褪色・焼きつきを起こすことがあります。
- 長期間使用しないと、カビがはえたり故障の原因になることがあります。使用前には動作点検をされることをおすすめします。
- 三脚に取り付ける際、カメラを回さず、三脚のネジを回してください。
- 本体の電気接点部には手を触れないでください。
- レンズに無理な力を加えないでください。

※ CCD (charge coupled device) とは、レンズを通して入ってきた光を受けて、電気信号に変換する素子のこと。

電池についてのご注意

液漏れ、発熱、発火、破裂、誤飲などによるやけどやけがを避けるため、下記の注意事項を必ずお守りください。

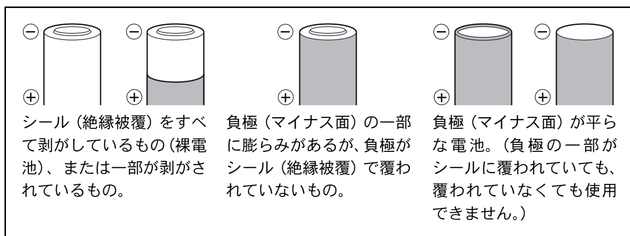
⚠ 危険

- 充電式電池は、専用のオリンパス製電池と充電器をご使用ください。電池は指定の充電器以外で充電しないでください。ご使用になる際は、電池、充電器等の説明書をよく読んで、正しくお使いください。
- 火中への投下や、加熱をしないでください。
- ＋－を金属等で接続したり、金属製のネックレスやヘアピン等と一緒に持ち運んだり、保管しないでください。
- 強い日なた、炎天下の車内やストーブの前面など、高温の場所で使用•放置しないでください。
- 直接ハンダ付けしたり、変形や改造・分解をしないでください。端子部安全弁の破壊や、アルカリ液の飛散が生じ危険です。

● 電源コンセントや自動車のシガレットライターの差し込み等に、直接接続しないでください。
● 電池の液が目に入ると、失明の原因になります。こすらずに、すぐ水道水などのきれいな水で充分に洗い流し、直ちに医師の治療を受けてください。
● 電池を誤って飲まないよう、乳幼児の手の届かぬ場所で保管および使用してください。万一飲み込んだ場合は、直ちに医師に相談してください。

⚠ 警告

● 電池を水や海水などにつけたり、端子部を濡らさないでください。
● 以下の内容を守らない場合、電池の液漏れ、発熱、発火、破裂により、火災やけがのおそれがあります。
  - このカメラで指定されていない電池を使わないでください。
  - 古い電池と新しい電池、充電した電池と放電した電池、また、容量、種類、銘柄の異なる電池を一緒に混ぜて使用しないでください。
  - 充電できないアルカリ電池やリチウム電池、リチウム電池パック（CR-V3）を充電しないでください。
  - ＋－を逆にして装着・使用しないでください。また、機器にうまく入らない場合は無理に接続しないでください。
  - 外装シール（絶縁被覆）を一部またはすべて剥がしている電池や、破れている電池をご使用になりますと、電池の液漏れ、発熱、破裂の原因になりますので、絶対にご使用にならないでください。
  - 市販されている電池の中にも、外装シール（絶縁被覆）の一部またはすべてが剥がれている電池があります。このような電池は、絶対にご使用にならないでください。
● このような形状の電池はご使用になれません。



シール（絶縁被覆）をすべて剥がしているもの（裸電池）、または一部が剥がされているもの。

負極（マイナス面）の一部に膨らみがあるが、負極がシール（絶縁被覆）で覆われていないもの。

負極（マイナス面）が平らな電池。（負極の一部がシールに覆われていても、覆われていなくても使用できません。）

● ニッケル水素電池の充電が、所定充電時間を越えても完了しない場合は、充電を中止してください。
● 液漏れ、変色、変形、その他異常が発生した場合は使用を中止し、販売店または当社サービスステーションにご相談ください。火災や感電の原因となります。

- 電池の液が皮膚・衣類へ付着したときは、直ちに水道水などのきれいな水で洗い流してください。皮膚に傷害を起こす原因になります。
- カメラの電池室を変形させたり、異物を入れたりしないでください。
- 電池に強い衝撃を与えたり、投げたりしないでください。

⚠ 注意

- 電池の＋－極が汗や油で汚れていると、接触不良をおこす原因になります。乾いた布でよく拭いてから使用してください。
- 当社製ニッケル水素電池はオリンパスデジタルカメラ「CAMEDIA（キャメディア)」専用です。他の機器に使用しないでください。
- 充電式電池をお買い上げ後初めてご使用になる場合、また長時間使用しなかった場合は、必ず充電してください。
- 充電式電池は必ず使用する電池を同時に（機種により4本または2本）充電してご使用ください。
- 電池を使ってカメラを長時間連続使用した後は、すぐに電池を取り出さないでください。やけどの原因となります。
- アルカリ電池は電池の銘柄、製造日からの保存期間、使用温度により内部抵抗・容量に差があるため、ニッケル水素電池やリチウム電池パック（CR-V3）などに比べて寿命が極端に短い場合があります。また、低温時は使えません。
- マンガン電池は使用できません。電池寿命が短いばかりでなく、電池の発熱等により本体に損害をもたらすおそれがあります。
- 電池は、一般に低温になるにしたがって一時的に性能が低下します。寒冷地で使用するときは、カメラを防寒具や衣服の内側に入れるなどして保温しながら使用してください。なお、低温のために性能の低下した電池は、常温に戻ると回復します。
- ニッケル水素電池ご使用推奨温度範囲
  放電（機器使用時）：0 ～40 ℃
  充電：0 ～40 ℃
  保存：－20 ～30 ℃
  上記温度範囲外での使用は性能・寿命の低下の原因となります。保管の際はカメラから電池を取り出してください。
- 長時間ご使用にならない場合は、カメラから電池を外しておいてください。電池の液漏れ・発熱により、火災やけがの原因となることがあります。
- 撮影条件、使用環境および電池により撮影枚数が減少する場合があります。
- 長期間の旅行などには、予備の新しい電池を用意することをおすすめします。特に海外では、地域によって入手困難なことがあります。
- 電池を捨てる際は、地域の規定に従って処分してください。

液晶モニタとバックライト※1について

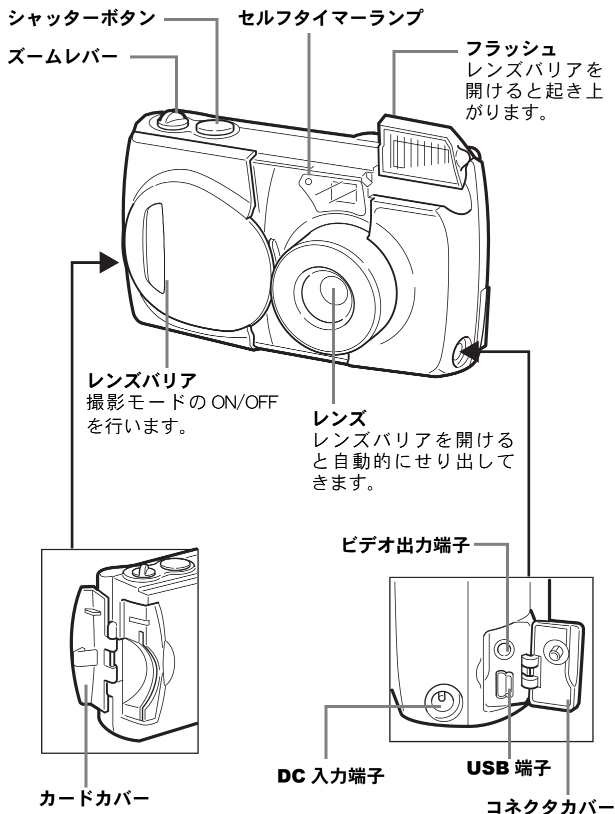
本製品は背面の表示には、液晶モニタを使用しています。
これらは液晶モニタに関するご注意です。

- 液晶モニタは強く押さないでください。画面上ににじみが残り、画像が正しく再生されなくなったり、液晶モニタが割れたりするおそれがあります。万一破損した場合は中の液晶を口に入れないでください。液晶が手足や衣類に付着した場合は、ただちに石鹸で洗い落してください。
- 液晶モニタの画面上下に光が帯状に見える事がありますが、故障ではありません。
- 被写体が斜めの時、液晶モニタにギザギザが見えますが、故障ではありません。再生時には目立たなくなります。
- 一般に低温になるにしたがってバックライトは点灯に時間がかかったり、一時的に変色したりする場合があります。寒冷地で使用するときは、保温しながら使用してください。低温のために性能の低下したバックライトは、常温に戻ると回復します。
- 液晶モニタに使用されている液晶画面のバックライトおよびコントロールパネル※2には寿命があります。画面が暗くなったり、ちらつき始めたら、当社サービスステーションにお問い合わせください。（保証期間外の修理は有料となります。）
- **本製品の液晶モニタは、精密度の高い技術でつくられていますが、一部に常時点灯あるいは常時点灯しない画素が存在することがあります。これらの画素は、記録される画像に影響はありません。また、見る角度により、特性上、色や明るさにむらが生じることがありますが、液晶モニタの構造によるもので故障ではありません。ご了承ください。**

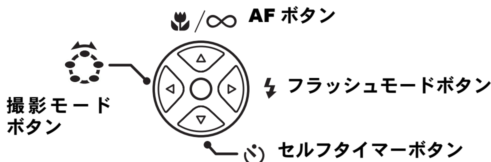
※1　バックライトとは、液晶モニタを照らすための光源のこと。
※2　一部搭載していない機種もあります。

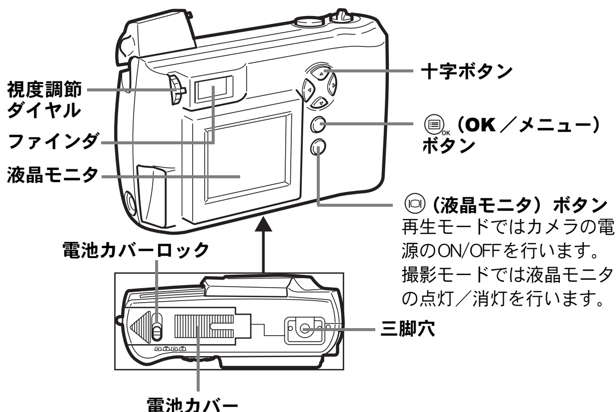
第1章　準備

各部の名称


シャッターボタン
ズームレバー
セルフタイマーランプ
フラッシュ
レンズバリアを開けると起き上がります。
レンズバリア
撮影モードの ON/OFF を行います。
レンズ
レンズバリアを開けると自動的にせり出してきます。
ビデオ出力端子
DC 入力端子
USB 端子
コネクタカバー
カードカバー

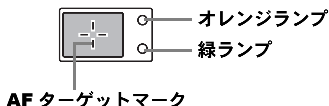
十字ボタン





再生モードではカメラの電源のON/OFFを行います。撮影モードでは液晶モニタの点灯／消灯を行います。

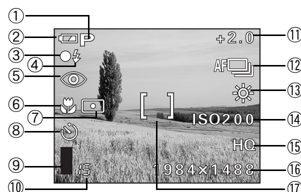
ファインダ



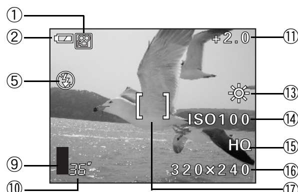
AF ターゲットマーク

液晶モニタの表示

撮影モードのとき



静止画



ムービー

		表示例	参照頁
①	モード	P、[人物]、[風景+人物]、[風景]、[夜景]、[セルフ]、[ムービー]	P.43
②	電池残量	[電池]、[電池]	P.18
③	緑ランプ	●	P.47
④	フラッシュ発光予告 手ぶれ警告／フラッシュ充電	ϟ（点灯） ϟ（点滅）	P.47
⑤	フラッシュモード	[赤目軽減]、ϟ、[発光禁止]	P.59
⑥	AF	[マクロ]、∞	P.50, 62
⑦	測光	[スポット]	P.66
⑧	セルフタイマー	[セルフタイマー]	P.64
⑨	メモリゲージ	[メモリゲージ]	P.18
⑩	撮影可能枚数／秒数	16／16”	P.47, 54
⑪	露出補正	-2.0、-1.5、-1.0、-0.5、+0.5、+1.0、+1.5、+2.0	P.80
⑫	連写	[連写]、AF[連写]	P.67
⑬	ホワイトバランス	[晴天]、[曇天]、[電球]、[蛍光灯]	P.82
⑭	ISO	ISO 100、ISO200、ISO400	P.78
⑮	画質	3:2、SHQ、HQ、SQ、TIFF	P.73
⑯	画素数	1984×1488、1984×1312、1600×1200、1280×960、1024×768、640×480	P.73
⑰	AFターゲットマーク	[ ]	P.47

再生モードのとき



静止画



ムービー

	表示例		参照頁
①	プリント予約・プリント枚数	×2	P.124
②	電池残量	、	P.18
③	プロテクト		P.97
④	画質	3:2、SHQ、HQ、SQ、TIFF	P.73
⑤	画素数	1984×1488、1984×1312、1600×1200、1280×960、1024×768、640×480	P.73
⑥	露出補正	-2.0、-1.5、-1.0、-0.5、+0.5、+1.0、+1.5、+2.0	P.80
⑦	ホワイトバランス	WB AUTO、、、、	P.82
⑧	ISO	ISO 100、ISO200、ISO400	P.78
⑨	日時	'02.06.10　12:00	P.30
⑩	ファイル番号、コマ番号／秒数	100-0016、0''／20''	P.125
⑪	モード		P.95

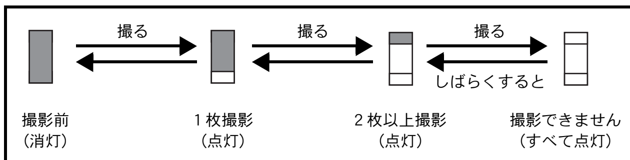


再生時に画像の詳細を見るときは、情報表示をしてください。「画像の詳細情報を表示する（情報表示）（☞ P.117）」

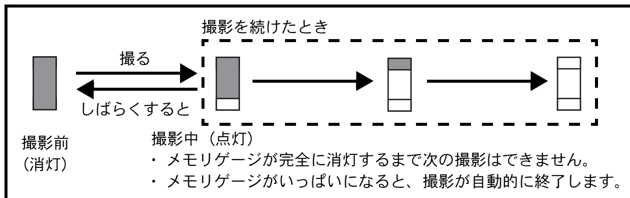
●メモリゲージについて

撮影すると、メモリゲージが点灯します。点灯中はカードへの記録を行っています。メモリゲージの表示は、撮影状態によって次のように変化します。メモリゲージがいっぱいになったときは、しばらく待ってから撮影を再開してください。

静止画を撮影しているとき

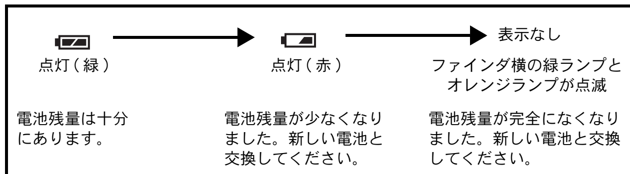


ムービーを撮影しているとき



●電池マークについて

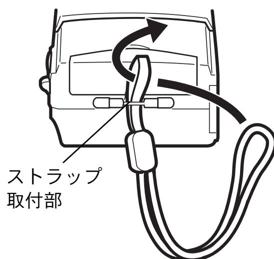
カメラの電源を入れたときや使用中に電池残量が少なくなると、液晶モニタの電池残量表示が以下のように表示されます。



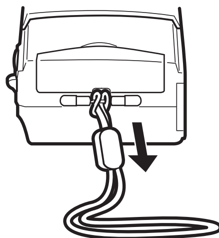
ストラップを付ける

1 **ストラップ取付部にストラップの短い方を通します。**

2 **ストラップの長い方を輪にくぐらせます。**



3 **少し強めに引っ張り、ゆるんで抜けないことを確認してください。**



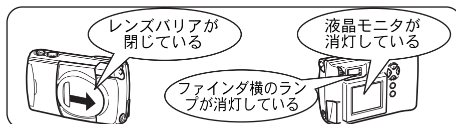
注意

- カメラをストラップで下げているときは、他のものに引っかかったりしないように、注意してください。けがや事故の原因となることがあります。
- 上の図にしたがってストラップを正しく取り付けてください。万一、誤った取り付けによりストラップが外れてカメラを落とすなどした場合、損害など一切の責任は当社では負いかねますのでご了承ください。

電池を入れる

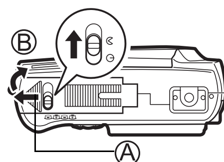
電池はリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個、または単3ニッケル水素電池、ニッカド電池、アルカリ電池、リチウム電池4本を使用します。

1 **以下のことを確認してください。**



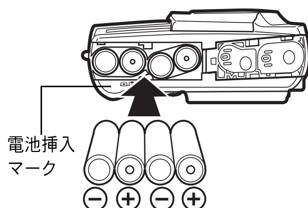
2 **電池カバーロックを⊖から⊲の方向へスライドします。**

3 **電池カバーをⒶの方向（電池カバーに示されている◁の方向）へスライドさせて、Ⓑの方向に引き上げます。**



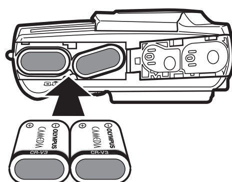
4 **図のように電池の向きを正しく合わせて入れます。**

単3型電池の場合



単3型電池の場合は、カメラ底面に電池挿入方向を示す表示があります。

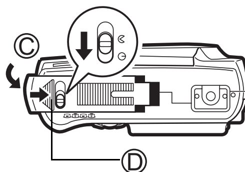
リチウム電池パックの場合



リチウム電池パックの場合は、「CAMEDIA」のラベルがレンズ側に来るようにして入れます。

5 **電池カバーを©の方向に下げて、◀部分をしっかり押しながらⒹの方向にスライドさせます。**

電池カバーが閉まりにくいときは無理に押さず、電池カバーの◀の刻印をしっかりおさえ、電池カバーを閉じた状態で図の矢印の方向へ押してください。



6 **電池カバーロックを⊗から⊖の方向へスライドします。**



電池を外して約1時間放置すると、日時の設定は初期状態に戻ります。

●別売の電池やACアダプタを上手に選ぶ

このカメラでは付属の電池の他、次の電池・ACアダプタを使用することができます。用途にあわせてお選びください。

●リチウム電池パックCR-V3（充電できません）

リチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）は寿命が長く、旅行などにも便利です。
リチウム電池パックのラベルは、はがさないでください。

●ニッケル水素電池（充電式電池）

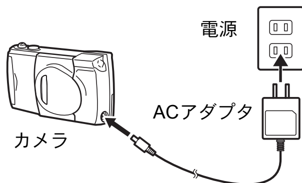
当社製ニッケル水素電池（充電器セットBU-50SNH）は、撮影後に充電すると繰り返し使用できるので経済的です。また、低温にも強く、寒い地域でも有効です。

●単3アルカリ電池

旅行先などで電池が消耗しても、どこでも入手しやすい単3アルカリ電池がご使用いただけます。ただし、銘柄や使用条件によって撮影可能枚数が大きく変わります。ご使用の際は液晶モニタをこまめにお切りください。

●ACアダプタ

専用ACアダプタC-7AC（6V用）で、家庭用電源（AC100V）から電源を取ることができます。
カメラに電池が入っていても電力はACアダプタから供給されます。またカメラ内の電池は充電されません。



注意

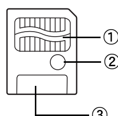
- マンガン電池は使用できません。
- 電池を使用してカメラをパソコンに長時間接続しているとき、途中で電池残量がなくなると画像データにトラブルが生じることがあります。ACアダプタのご使用をおすすめします。ただし、パソコンとの接続中には、ACアダプタを抜き差ししないでください。
- カメラの電源が入っているときに電池や AC アダプタを抜き差ししないでください。カメラに設定されている設定値や機能にトラブルが生じる場合があります。
- 電池の寿命は、お使いの電池の種類、メーカー、カメラの使用条件などにより大きく異なります。
- 以下の条件では撮影をしなくても電力を消費するため、撮影可能枚数が減少することがあります。
    - 液晶モニタが点灯している。
    - 再生モードで長時間、液晶モニタを点灯する。
    - ズーム動作を繰り返す。
    - 撮影モードでシャッターボタンを半押しして、フォーカス動作を繰り返す。
    - パソコンとの接続時。
- 本書の「安全にお使いいただくために（☞ P.8）」を必ずお読みください。

カード（スマートメディア）を入れる

本書では、スマートメディアをカードと呼びます。このカメラで撮影した画像は、カードに記録されます。

●カードについて

カードとは撮影した画像を記録するためのフィルムにあたるものです。カードに記録された画像は自由に削除したり、パソコンで加工することができます。



① 接触面（コンタクトエリア）
　カメラの信号読み取り接点が接触する部分です。
② ライトプロテクトエリア
　書き込み禁止状態にしたいときは、ここに付属のライトプロテクトシールを貼ります。
③ インデックスエリア
　カードに保存されている内容がわかるようにここに付属のラベルを貼ります

以下のカードが使用できます。

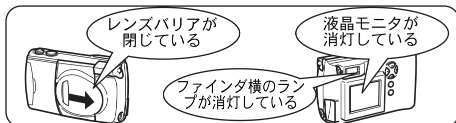
・付属の16MBの標準カード
・別売のオリンパス製カード（4・8・16・32・64・128MB）
・市販の3V(3.3V)カード（4・8・16・32・64・128MB）

注意

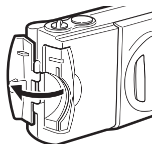
- 2MBのカードは使用できません。
- 市販の5Vカードは使用できません。
- オリンパス製以外の市販のカード（3V（3.3V）など）や、パソコンなどの他の機器でフォーマット（初期化）したカードは、このカメラで認識できないことがあります。お使いになる前に、必ずこのカメラでフォーマットしてください。「フォーマットする（カードセットアップ）（ ☞ P.112)」

カードのお取り扱い上の注意
・動作温度：0℃～55℃、保管温度：－20℃～65℃、
　動作・保管湿度：95%以下
・保管時・携帯時は、静電気防止ケースに入れてください。
・カードを曲げたり、衝撃を与えないでください。
・カードのコンタクトエリアには直接手を触れないでください。
・ライトプロテクトシールは再使用しないでください。
・カードの取扱説明書（付属）もお読みください。

1 **以下のことを確認してください。**

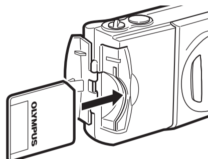


2 **カードカバーを開けます。**



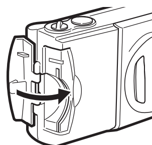
3 **カードを図の方向につきあたるまで差し込みます。**

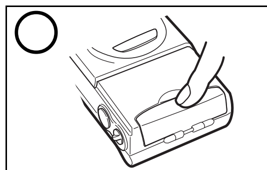
カードカバーの内側にカード挿入方向のマークがあります。



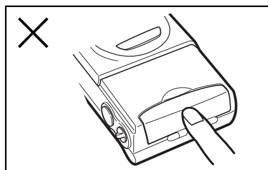
4 **カードカバーをカチッという音がするまで閉じます。**

カードカバーを閉じるとき、カメラ前面からカードカバーを押さえるように閉じてください。横方向からカードカバーを押しても閉じることができません。





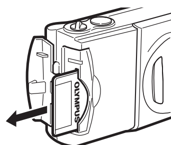
正しい閉じ方



悪い例

●カードを抜くとき

カードを指先でつまみながら矢印の方向に引き抜きます。



注意

カメラの電源が入っているときは絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したりしないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータの復旧はできません。

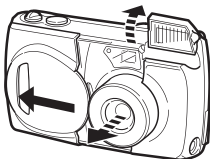
電源のON/OFF

●撮影するとき

電源ON … レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。フラッシュが起き上がりレンズがせり出します。

レンズバリアを開けてもレンズがせり出してこないときは、レンズバリアがはじめのクリック位置で止まっている場合があります。カチッと音がするところまで開いてください。

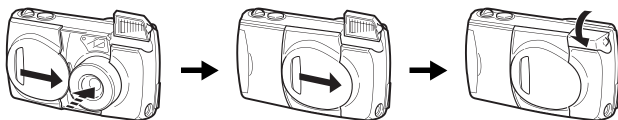


電源OFF … レンズバリアをレンズのところまで少し閉じます。

レンズに触れる直前にカチッとした感触があり、レンズが引き込まれます。レンズが完全に引き込まれたら、レンズバリアを完全に閉じます。

電源が切れます。(液晶モニタが消灯します)

フラッシュを手で閉じます。





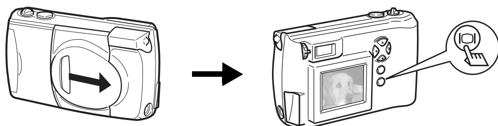
電源を入れたまま約3分間何も操作しないと、電池の消耗を防ぐためにスリープモード（待機状態）になります。液晶モニタが点灯しているときは自動的に消灯します。シャッターボタンやズームレバーなどを操作するとスリープモードは解除されます。しばらく撮影しないときはできるだけ電源を切っておいてください。



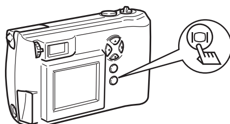
レンズバリアを閉じる際は、レンズに強く押し当てないでください。キズや故障の原因になります。

●再生するとき

電源ON …　レンズバリアを閉じた状態で（◎）ボタンを押します。
再生モードで電源が入ります。液晶モニタが点灯し、撮影した最新の画像が表示されます。



電源OFF …（◎）ボタンを押します。
液晶モニタが消灯し、電源が切れます。





電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示されることがありますが、故障ではありません。



カメラの電源が入っているときは、絶対にカードカバーを開けたり、カードや電池を取り出したり、ACアダプタを抜き差ししないでください。カード内のデータが破壊されるおそれがあります。破壊されたデータは復旧できません。カードを交換するときも、必ず一度電源を切ってからカードカバーを開けてください。

●カードセットアップ画面が表示されたときは

電源をONにすると、カードチェックが自動的に行われます。フォーマット(初期化)が必要なカードが入っていると、以下の画面が表示されます。





フォーマットするとカード内の全てのデータが消去されますので、ご注意ください。

電源をオフにする



**ボタンを押して[電源オフ]を選択し、OKボタンを押します。**

カメラの電源が切れます。

カードをフォーマットする

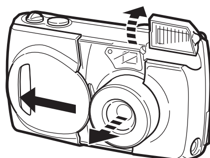


ボタンを押して[フォーマット]を選択し、OKボタンを押すとフォーマットを確認する画面が表示されます。もう一度[フォーマット]を選択してOKボタンを押します。

フォーマットが始まります。フォーマットが終わると、撮影できる状態になります。

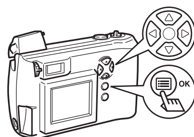
日付・時刻を設定する

1 **レンズバリアを開けます。**

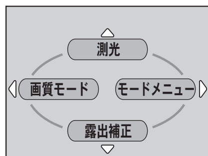


2 **ボタンを押します。**

撮影モードのトップメニューが表示されます。

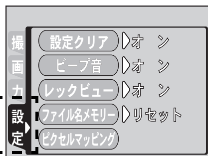


3 **十字ボタンのを押して［モードメニュー］を選択します。**



トップメニュー画面

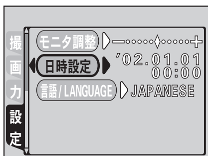
4 **ボタンを押して［設定］タブを選択し、ボタンを押します。**



［設定］タブ

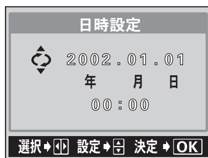
5 **ボタンを押して［日時設定］を選択し、ボタンを押します。**

選択した項目に緑の枠が移動します。



6 ボタンを押して日付の順序を、"年-月-日"、"月-日-年"、"日-月-年"から選択し、ボタンを押します。

年の入力に移動します。
この手順は"年 - 月 - 日"に設定した場合の説明です。



7 ボタンを押して最初の項目を入力し、ボタンで次の項にすすみます。

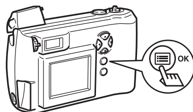
ボタンを押すと、1 つ前の項目に戻ります。
"年"の上 2 桁は固定されています。



8 同様の操作を繰り返し、時刻まで入力します。

9 ボタンを押します。

0 秒の時報に合わせてボタン押すと、正確に時間を合わせられます。時計はこのとき動き始めます。



10 レンズバリアを閉じます。

カメラの電源がオフになります。

注意　電池を抜いて約1時間放置したり、電池が消耗していると、日時の設定が消えたり遅れたりします。大切なものを撮る前には、日時の設定が正しいことを確認してください。



再生モードからも同じ手順で設定することができます。

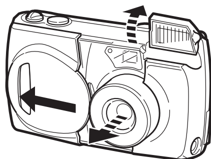
第1章 準備

ファインダを見やすくする

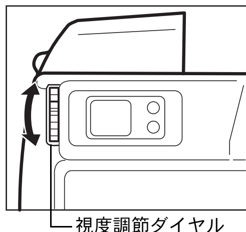
より使いやすくするために、お使いになる方の視力に合わせてファインダを調整することができます。

1 **レンズバリアを開けます。**

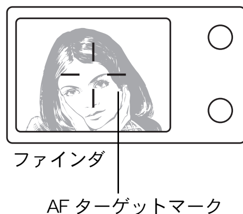
フラッシュが起き上がり、レンズがせり出します。



2 **ファインダをのぞきながら、視度調節ダイヤルを少しずつ回します。**



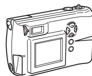
3 **AF ターゲットマークがはっきり見えるところで、ダイヤルを止めます。**



撮影の準備が整いましたので、撮影を行います。「静止画を撮る（☞ P.46）」

メニューとタブのしくみ

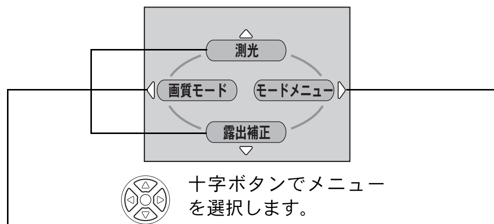
カメラの電源をONにして(≡)OKボタンを押すと、液晶モニタにトップメニューが表示されます。カメラの各設定はメニューで行います。ここでは撮影モードの画面を使って、メニューのしくみについて説明します。



(≡)OKボタンを押します。



トップメニューが表示されます。



十字ボタンでメニューを選択します。

ショートカットメニュー

- 簡単に設定画面にすすみます。
- 操作可能なボタンが画面下に表示され、△▽ボタンで項目を選択します。

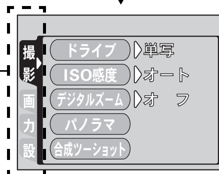




モードメニュー

- ISO感度やホワイトバランスなどいろいろな設定ができます。
- 設定項目が機能ごとに4つのタブで分類されています。
- △▽ボタンでタブを選択すると[撮影][画像][カード][設定]のそれぞれのメニュー項目が表示されます。

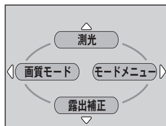


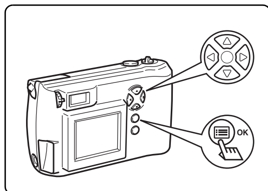


●メニューの操作方法

1 ボタンを押してトップメニューを表示させボタンを押します。

トップメニュー





2 十字ボタンのを押してタブを選択し、ボタンを押します。

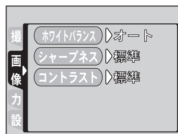
撮影タブ



ボタンを押すとタブの選択に戻ります。

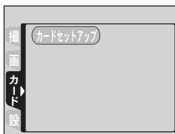


画像タブ



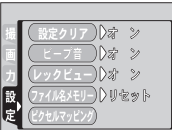


カードタブ



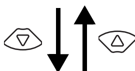


設定タブ



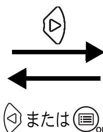
3 ボタンを押して設定する項目を選択し、ボタンを押します。







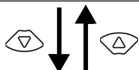
選択された項目に緑色の枠が移動します。



ボタンまたはボタンを押すとメニュー項目の選択に戻ります。

4 ボタンを押して設定を変更します。
ボタンを押して設定を完了します。







ボタンを押すと設定が完了し、再びボタンを押すとメニューが終了します。

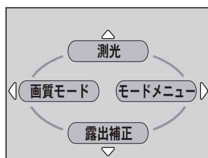
メモ

- カメラの状態や設定内容などにより選択できない項目があります。
- 撮影時にメニューを表示した状態でシャッターボタンを押すと、そのとき選択されている設定状態で撮影することができます。
- 設定した機能を電源を切っても保持させておきたい場合は、「設定クリア」の機能を「オフ」に設定してください。

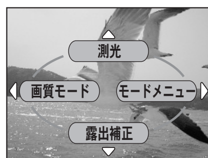
●ショートカットメニュー一覧

●撮影モード

静止画撮影時



ムービー撮影時



測光

画像の明るさを決める範囲を[ESP][スポット]から選択します。	P.66

画質モード

撮影する画像の画質や画像の記録サイズを選択します。 静止画　：3:2、SHQ、HQ、SQ、TIFF ムービー：HQ、SQ	P.73

露出補正

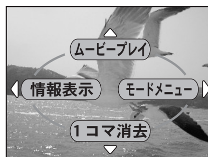
画像の明るさを調整します。	P.80

●再生モード

静止画再生時



ムービー再生時



自動再生

記録されている静止画を順に表示します。	P.92

ムービープレイ

ムービー再生	ムービーを再生します。	P.95
インデックス作成	撮影したムービーを 9 分割画面で表示するインデックス画像を作成します。	P.107
ムービー編集	ムービーの編集を行います。	P.109

情報表示

画像の撮影情報をすべて表示します。	P.117

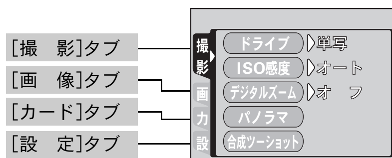
1 コマ消去

選択した画像を消去します。	P.99

●モードメニュー一覧

モードメニューの中は4つのタブに分けられています。◯◯ボタンを押して画面の左側にあるタブを選択すると、それぞれの機能が表示されます。

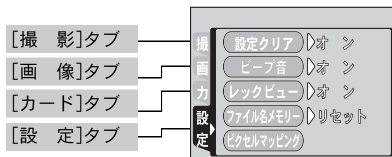
●撮影モード



[撮　影]タブ		
ドライブ	撮影方法を[単写][連写][AF連写]から選択します。	P.67
ISO感度	ISO感度を[オート][100][200][400]から選択します。	P.78
デジタルズーム	光学ズームの最大倍率からさらに高倍率(最大約10倍)のズーム撮影が可能です。	P.57
パノラマ	カードのパノラマ機能を使って、パノラマ撮影をします。	P.69
合成ツーショット	連続して撮影した2枚の静止画を合成します。	P.71

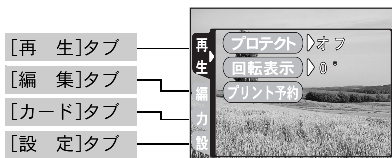
[画　像]タブ		
ホワイトバランス	光源に応じて、適切なホワイトバランスを設定します。	P.82
シャープネス	画像をよりシャープに撮影するときに設定します。	P.84
コントラスト	メリハリの効いた画像を撮影するときに設定します。	P.86

[カード]タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.112



［設　定］タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.115
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオン／オフにします。	P.111
レックビュー	撮影した画像の記録中に、その画像を液晶モニタに表示するかどうか選択します。	P.114
ファイル名メモリー	ファイル名のつけかたを変更します。	P.119
ピクセルマッピング	CCDと画像処理機能のチェックを行います。	P.121
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.118
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.30
言語／LANGUAGE	液晶モニタに表示される言語を［JAPANESE］［ENGLISH］から選択します。	P.122

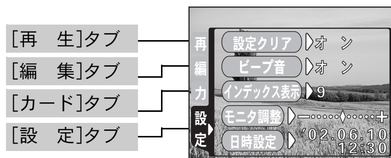
●再生モード



[再　生]タブ		
プロテクト	画像を誤って消去しないようにプロテクト(保護)します。	P.97
回転表示	撮影した画像を時計回り(+90°)、または反時計回り(-90°)に回転して表示させます。	P.94
プリント予約	カードにプリント予約します。	P.124

[編　集]タブ		
モノクロ作成	撮影した画像からモノクロ画像を作成します。	P.101
セピア作成	撮影した画像からセピア画像を作成します。	P.102
リサイズ	撮影した画像の画像サイズを小さくした画像を作成します。	P.103
トリミング	撮影した画像の一部を拡大した画像を作成します。	P.104

[カード]タブ		
カードセットアップ	カードをフォーマットします。	P.112
	カード内の全ての画像・データを消去します。	P.100



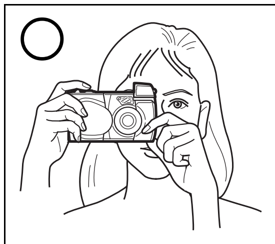
[設　定]タブ		
設定クリア	カメラの電源をオフにしたときに設定内容を保持するかどうかを選択します。	P.115
ビープ音	カメラの操作音や警告音をオン／オフにします。	P.111
インデックス表示	インデックス再生時、液晶モニタに表示する画像の枚数を設定します。	P.91
モニタ調整	液晶モニタの明るさを調整します。	P.118
日時設定	日付と時刻を設定します。	P.30
言語／LANGUAGE	液晶モニタに表示される言語を［JAPANESE］［ENGLISH］から選択します。	P.122

カメラの正しい構え方

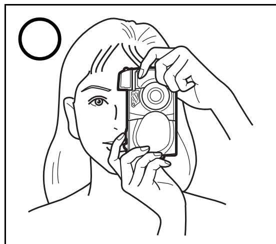
両手でしっかりカメラを持ち、脇をしっかりしめます。
縦位置で撮影するときは、フラッシュが上になるようにします。

正しい構え方

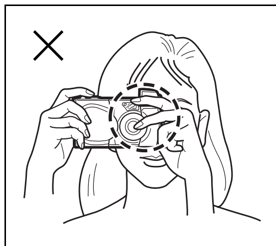
横位置



縦位置



悪い例



レンズとフラッシュに指やストラップがかからないよう、ご注意ください。



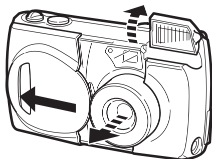
シャッターボタンを押し込んだときにカメラがぶれると、きれいな画像が撮れません。正しく構えて、静かにシャッターボタンを押しましょう。

撮影モードについて

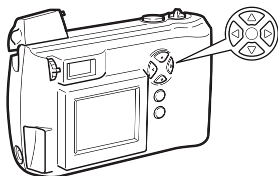
撮影の目的や状況に対応した撮影モードが 7 種類用意されています。コントラスト、シャープネスなどの設定を各モードごとに適した条件で設定しています。これらの撮影モードとショートカットメニュー、モードメニューを組み合わせて設定することもできます。

1 レンズバリアを開けます。

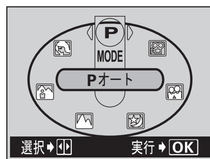
撮影モードで電源が入ります。



2 ◁ボタンを押します。



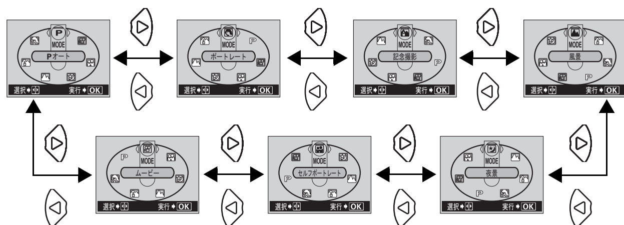
液晶モニタが点灯し、撮影モードを選択する画面（バーチャルダイヤル）が表示されます。



バーチャルダイヤル画面

3 **目的に合わせて以下のモードのいずれかに設定します。**

ボタンを押して選択し、ボタンを押すとモードが設定されます。



● P Pオート（初期設定）

プログラム撮影で、静止画を撮影します。フラッシュや測光などその他の機能は、自由に設定できます。

● ポートレート

人物撮影をするのに最適です。背景をぼかし人物だけにピントが合うようにすることで、人物を背景から浮き出させる効果があります。肌色と髪の質感の再現を重視しています。カメラが自動的にポートレート撮影に適した条件を設定します。

● 記念写真

人物と背景をいっしょに撮るのに最適です。近くの被写体と背景の両方にピントを合わせるように撮ります。空、緑、人物をきれいに撮ります。カメラが自動的に記念写真に適した条件を設定します。

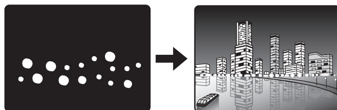
● 風景

風景を撮るのに最適です。遠くの風景にピントを合わせるようにして、くっきりと写します。また、青や緑の色をよりきれいに再現するので、自然のな

かでの撮影には効果的です。カメラが自動的に風景撮影に適した条件を設定します。

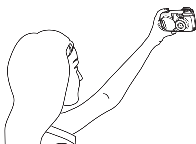
● 夜景

夜の景色を撮るのに最適です。通常の撮影よりも長いシャッター速度で撮影します。夜景以外のモードで街灯が輝く街の夜景を撮影すると、明るさが不足するので光っている点だけの画像になってしまいます。夜景モードでは、街の様子も写し出します。カメラが自動的に夜景撮影に適した条件を設定します。「夜景モードで撮る（☞ P.52）」



● セルフポートレート

撮影者がカメラを持って、自分を撮るのに最適です。ピントは近くに合うようになっています。カメラが自動的にセルフポートレート撮影に適した条件を設定します。ズームは広角の位置で固定され変更できません。



● 動画（ムービー）

ムービーを撮影します。被写体が移動したり、被写体との距離が変化した場合でも、カメラは常にピントと露出が正しく合うように作動します。
音声は記録されません。「ムービーを撮る（☞ P.54）」



各モードで設定できる機能については「撮影モード別の設定可能な機能（☞ P.146）」を参照してください。

注意

- 夜景モードでは、連写/AF連写はできません。
- セルフポートレートモードでは、デジタルズーム、パノラマ撮影はできません。

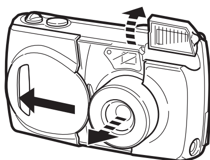
静止画を撮る

ファインダを見て撮る方法と、液晶モニタを見て撮る方法があります。どちらもシャッターボタンを押すだけで、手軽に撮ることができます。

●ファインダを見て撮る

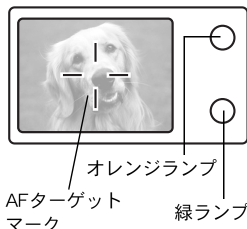
1 **レンズバリアを開けます。**

カチッと音がするまでスライドさせてください。
フラッシュが起き上りレンズがせり出します。



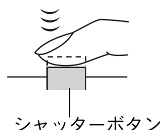
2 **ファインダ内のAFターゲットマークに撮りたいものを合わせます。**

80cm以内の距離で撮影するときは、マクロ撮影をしてください。「近くのものを撮る（マクロ）（☞ P.62）」



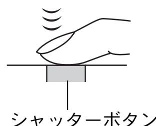
3 **シャッターボタンを軽く押します。**

（この状態を半押しといいます。）
ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。このときカメラ内部で動作音がしますが、撮影はされていません。



4 **半押しの状態から、さらにシャッターボタンを押し込みます。**

（この状態を全押しといいます。）
撮影されます。



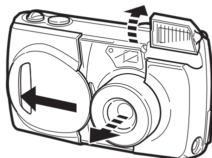


- 緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして再びシャッターボタンを軽く押してください。「ピントが合わないときは（☞ P.49）」
- 被写体までの距離が近すぎるときは、緑ランプが点滅します。「近くのものを撮る（マクロ）（☞ P.62）」

●液晶モニタを見て撮る

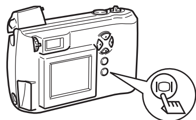
1 レンズバリアを開けます。

カチッと音がするまでスライドさせてください。
フラッシュが起き上りレンズがせり出します。



2 （◎）ボタンを押します。

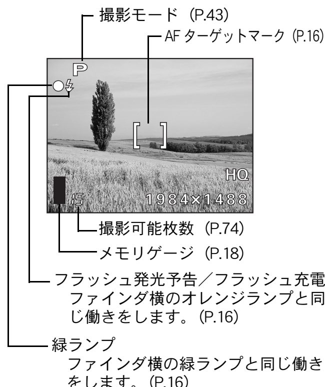
液晶モニタが点灯します。「液晶モニタの表示（☞ P.16）」

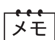


3 液晶モニタを見ながら構図を決めます。

4 ファインダを使った撮影と同じ手順で撮影します。

「●ファインダを見て撮る（☞ P.46）」
液晶モニタを消灯して撮影するときは、もう一度（◎）ボタンを押してください。





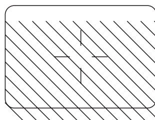
- シャッターボタンを半押ししてオレンジランプが遅く点滅しているときは、フラッシュ充電中です。撮影後にオレンジランプが早く点滅しているときは、画像を保存中です。点滅が終わるまで、お待ちください。
- メモリゲージがいっぱいになると撮影できません。数秒待って、メモリゲージが消灯してから撮影してください。「●メモリゲージについて（☞P.18）」
- 液晶モニタは構図を確認するものです。手ぶれやピント、正確な露出については、拡大表示をして確認してください。「●クローズアップ再生（☞P.89）」

注意

- シャッターボタンは静かに押してください。シャッターボタンを強く押すとカメラが動き、写真がぶれる原因になります。
- オレンジランプの点滅中は、絶対に電池や AC アダプタを抜かないでください。また、カードカバーを開けないでください。撮影した画像が保存されないだけでなく、撮影済みの画像が破壊されるおそれがあります。

●ファインダと液晶モニタを使い分ける

	ファインダ	液晶モニタ
長所	カメラがぶれにくく、周囲が明るくても写したいものがはっきり見えます。 電池の消耗が少ないです。	撮影する範囲を正しく確認できます。
短所	近くのものを撮影するとき、ファインダで見える範囲と撮影できる画像とのあいだにずれが生じます。	手ぶれが起こりやすく、周囲が明るいときや暗いときでは見えにくいことがあります。電池の消耗が早くなります。
こんな撮影に	スナップや風景写真など、気軽に撮影したいとき。（約80cm～遠距離）	実際に写る範囲を確認しながら、撮影したいとき。人物や花のアップなど近くの被写体を撮るとき。（約20～80cm）



- ファインダで見た構図より、実際にはやや広い範囲が撮影されます。
- 左図のように写すものとの距離が近いと、実際に撮影される画面の範囲（斜線部）は、ファインダで見ている範囲と多少異なってきます。

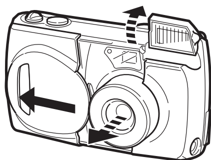
ピントが合わないときは

ピントを合わせたいものがAFターゲットマークから外れる（中央にない）ときは、次の操作で構図の好きな場所にピントを固定して撮影することができます。これをフォーカスロックといいます。

●ピントを合わせてから構図を決める（フォーカスロック）

1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。



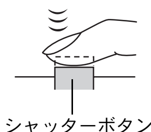
2 **ファインダーをのぞき、ピントを合わせたいものにAF ターゲットマークを合わせます。**

ピントが合いにくいものや、速く走るものの場合はまず撮影したいものとほぼ同じ距離のものにカメラを向けます。

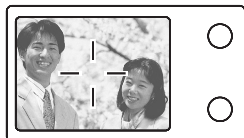


3 **シャッターボタンを、ファインダ横の緑ランプが点灯するまで半押しします。**

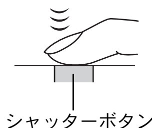
ピントと露出が固定されると、緑ランプが点灯します。



4 **半押しの状態のまま撮影したい構図に合わせます。**



5 シャッターボタンを全押しします。





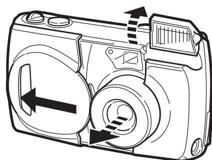
- 被写体までの距離が近すぎるときは、緑ランプが点滅します。「近くのものを撮る（マクロ）（☞ P.62）」
- 緑ランプが点滅したときは、ピントが合っていません。シャッターボタンから指を離し、ピントを合わせる位置を少しずらして再びシャッターボタンを軽く押してください。

●ピントを遠距離に固定する（∞固定）

ピントを遠距離（∞）に固定することができます。風景の撮影でピントが合いにくいときに利用します。

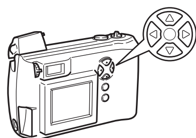
1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。



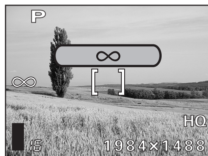
2 ◇ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、現在のAF設定が表示されます。



3 **[∞] が表示されるまで ボタンを押します。**

ボタンを押すたびに［AF］［マクロ］［∞］の順で設定は変わります。
遠距離に設定されると液晶モニタに∞マークが表示されます。



4 **撮影します。**

∞撮影をやめるときは ボタンを繰り返し押して［AF］を表示させます。∞マークが消えます。

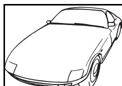


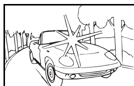
レンズバリアを閉じると∞撮影が解除されます。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（P.115）」

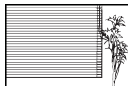
●オートフォーカスが苦手な被写体

次のような場合、オートフォーカスでピントが合いにくいことがあります。いずれの場合も、被写体と同距離にあるコントラストのはっきりとしたものでフォーカスロックした後、構図を決めて撮影してください。また、縦線のない被写体の場合は、カメラを縦位置に構えてフォーカスロックした後、構図を横に戻して撮影しても効果的です。

ファインダ横の緑ランプ点滅
このようなものにはピントが合いません

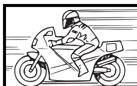

コントラストがはっきりしない被写体


画面中央に極端に明るいものがある場合


縦線のないもの

ファインダ横の緑ランプは点灯するが、写したいものにピントが合わない


遠いものと近いものが混在する場合


動きの速いもの


ピントを合わせたいものが中央にない

夜景モードで撮る

夜の景色を撮るときなど撮影モードを［夜景］に設定すると、夜景撮影に適した条件で撮影することができます。夜景モードで撮ると、フラッシュ発光時でもシャッター速度が 1/30 秒に固定されず、被写体や撮影時の状況に応じて最長 2 秒まで伸びます。また、シャッター速度が 1 秒より遅いとノイズリダクションが自動的に働き、ノイズの除去を行います。ノイズリダクションは、遅いシャッター速度で撮影すると発生する電機的なノイズを取り除く機能です。



通常撮影

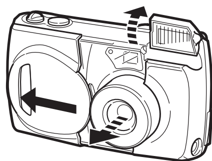


夜景モード撮影

上の画像は効果を示すためのイメージです。実際の画像とは異なります。

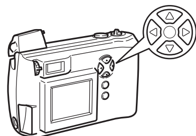
1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。



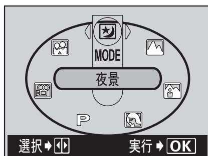
2 **◁ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯し、撮影モードを選択する画面が表示されます。



3 ◁▷ボタンを押して［夜景］を選択し、OKボタンを押します。

夜景撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
液晶モニタに夜景マーク が表示されます。



4 撮影します。

シャッター速度が 1 秒より遅い場合はノイズリダクションが自動的に働きます。処理中は緑ランプとオレンジランプが点滅します。
処理には撮影したシャッター速度と同じ時間がかかります。

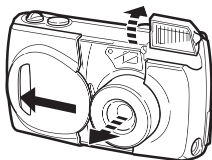
注意

- ノイズリダクションの処理中はカメラを動かしてもかまいませんが、その間は撮影できません。
- 夜景モードでは、フラッシュの初期設定は[オート発光]です。[赤目軽減]を設定すると、自動的に[強制発光]になります。
- 夜景モードでは、連写、AF連写、パノラマ撮影はできません。
- シャッター速度が遅いので、三脚の使用をおすすめします。

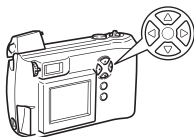
ムービーを撮る

動画が撮影できます。撮影した動画はカメラで再生したり、ムービー編集をしたりインデックス作成機能で静止画として別に保存することができます。
「ムービーの編集（☞ P.107）」

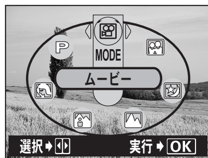
1 **レンズバリアを開けます。**
撮影モードで電源が入ります。



2 **◁ボタンを押します。**
液晶モニタが点灯し、撮影モードを選択する画面が表示されます。



3 **◁▷ボタンを押して［ムービー］を選択し、OKボタンを押します。**
ムービー撮影に設定され、撮影モードに戻ります。
液晶モニタに と、使用しているカードで記録できる撮影可能秒数の合計が表示されます。



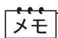
4 **液晶モニタを見ながら撮影します。**
シャッターボタンを押すとムービー撮影が開始されます。撮影が始まると連続して記録できる撮影可能秒数が表示されます。
もう一度、シャッターボタンを押すとムービー撮影が終了します。



●ムービー撮影を解除するには

ボタンを押します。

液晶モニタが消灯し、ムービー撮影が解除されます。



- レンズバリアを閉じるとムービー撮影が解除されます。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」
- フラッシュは使用できません。
- ムービー撮影は、画像の保存にしばらく時間がかかります。
- 撮影可能秒数は、画質、カードの空き容量などにより変わります。
- 音声は録音できません。

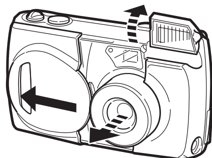
拡大して撮る（光学ズーム/デジタルズーム）

ズーム倍率2.8倍（光学ズーム 35mmカメラ換算：36mm ~ 100mm）の望遠や広角撮影が行えます。デジタルズームと組み合わせて使用すると、最大約10倍の撮影ができます。

●光学ズームを使う

1 **レンズバリアを開けます。**

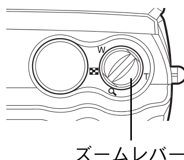
撮影モードで電源が入ります。



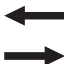
2 **ファインダを見ながらズームレバーをスライドします。**

ズームレバーをT側に引くと望遠になります。

ズームレバーをW側に押すと広角になります。









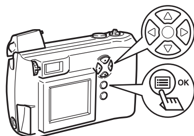
3 **ファインダを見ながら撮影します。**

●デジタルズームを使う

デジタルズームを使用するには撮影メニューで「デジタルズーム」を「オン」に設定します。最大約 3.6 倍まで拡大できます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



2 **ボタンを押して［モードメニュー］を選択します。**

3 **ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。**

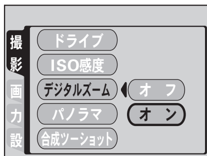


4 **ボタンを押して[デジタルズーム]を選択し、を押します。**



5 **ボタンを押して［オン］を選択し、ボタンを押します。**

デジタルズームが設定されます。
再びボタンを押すと、メニューが終了します。



6 ズームレバーを T 側に引きます。



ズームの拡大率によって
バーが移動します。



- ズームバーの白い部分が光学ズームの領域です。デジタルズームが設定されている場合は、ズームバーに赤い領域が表示されます。光学ズームで最大までズームアップすると、デジタルズームになります。
- デジタルズームの領域で撮影すると、画像が粗くなることがあります。
- 高倍率になるほど手ぶれが起こりやすくなります。手ぶれ防止のため、三脚を使うなどして、カメラを固定してください。
- 液晶モニタをオフにするとデジタルズームは解除されます。ただし、デジタルズームがオンに設定されている場合、再び液晶モニタをオンにするとデジタルズームも使用できる状態になります。



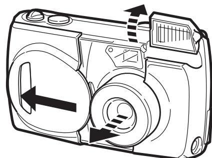
セルフポートレートモードでは、デジタルズームは設定できません。

フラッシュを使う

フラッシュの設定がオート発光（初期設定）のときには、暗いところや強い逆光でフラッシュが自動的に発光されますが、状況に応じて発光のしかたを変更することもできます。撮影状況、目的にあわせてフラッシュの設定をお選びください。

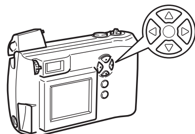
1 **レンズバリアを開けます。**

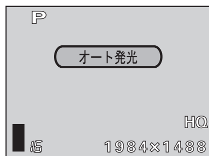
撮影モードで電源が入ります。



2 **ボタンを押します。**

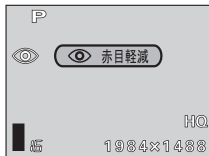
現在のフラッシュの設定が表示されます。



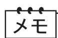


3 **現在のフラッシュの設定が表示されている状態でボタンを押します。**

ボタンを押すたびに［オート発光］［赤目軽減］［強制発光］［発光禁止］の順で設定は変わります。



4 **撮影します。**



- フラッシュの光が届く範囲は、約3.4mまでです。
- レンズバリアを閉じるとオート発光（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（P.115）」

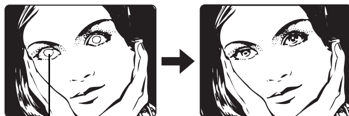
注意
- オレンジランプが点滅しているときは、フラッシュ充電中のためフラッシュが発光条件のときはシャッターが切れません。オレンジランプが消灯するまでお待ちください。
- 近い距離でフラッシュ撮影すると影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。
- 連写、AF連写、パノラマ、ムービー撮影ではご使用になれません。

●オート発光（表示なし）

暗いときや逆光のとき、フラッシュが自動的に発光します。
逆光で撮影するときは、撮りたいものにAFターゲットマークを合わせて撮影してください。

●赤目軽減（◎）

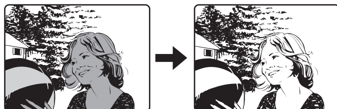
人物を撮影すると目が赤く写ることがありますが、［赤目軽減］に設定するとこの現象が軽減されます。本発光の前に数回の予備発光を行い、目が赤く写ってしまう現象を起こりにくくします。


目が赤く写ります

注意
- 最初の予備発光からシャッターが切れるまで約1秒かかります。カメラをしっかり構えて手ぶれを防いでください。
- フラッシュを正面から見ていない場合や、予備発光を見ていない場合、距離が遠い場合などや個人差により、赤目軽減の効果が現れにくくなります。

●強制発光（⚡）

フラッシュを必ず発光させます。木かげなどで顔にかかった陰をやわらげるときや、逆光、蛍光灯などの人工照明下での撮影のときに使用します。



注意　非常に明るい状況下では、効果が現れにくくなることがあります。

●発光禁止（⚡）

暗いところでも発光させたくないときに使用します。美術館などのように、フラッシュを使用できない場所での撮影に使用します。フラッシュが届かない遠景の夜景・夕景を撮りたいときにも使用します。

注意　暗いところの撮影ではシャッタースピードが長くなりますので、カメラぶれを防ぐため三脚のご使用をおすすめします。

第3章　撮影の応用

近くのものを撮る（マクロ）

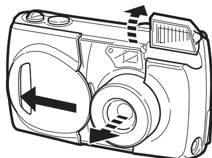
20 ～ 80cm の距離で撮影するときに使います。
通常の撮影では近接した被写体（20 ～ 80cm）にピント合わせをするのに時間がかかりますが、🌷（マクロ）モードにすると近接撮影のピント合わせが早くできます。


通常撮影


マクロ撮影

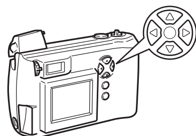
1 レンズバリアを開けます。

撮影モードで電源が入ります。



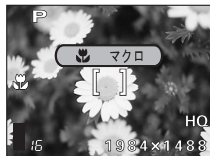
2 △ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、現在のAF設定が表示されます。



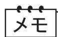
3 [マクロ] が表示されるまで△ボタンを押します。

△ボタンを押すたびに［AF］［マクロ］［∞］の順で設定は変わります。マクロに設定されると液晶モニタに🌷が表示されます。



4 液晶モニタを見ながら撮影します。

マクロ撮影をやめるときは◇ボタンを繰り返し押して[AF]を表示させます。マークが消えます。



レンズバリアを閉じるとマクロが解除されます。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」



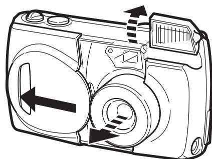
- マクロ撮影時は、被写体との距離を20～80cmの間に保ってください。近づきすぎると緑ランプが点滅します。
- フラッシュ使用時は影が目立ったり適正な明るさにならないことがあります。

セルフタイマーを使う

セルフタイマーを使って撮影できます。カメラを三脚にしっかりと固定してから撮影してください。記念写真を撮るときに便利です。

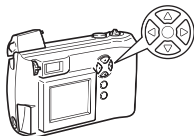
1 **レンズバリアを開けます。**

撮影モードで電源が入ります。



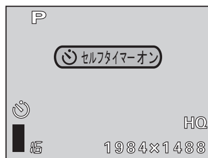
2 **▽ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯し、現在のセルフタイマーの設定が表示されます。



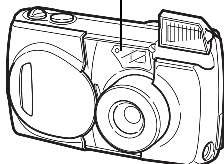
3 **現在のセルフタイマーの設定が表示されている状態で▽ボタンを押します。**

▽ボタンを押すたびに［セルフタイマーオン］［セルフタイマーオフ］の設定が変わります。



4 撮影します。

シャッターボタンを押すとセルフタイマーランプが約10秒間点灯し、さらに2秒間点滅した後、撮影されます。





- セルフタイマーモードは、設定クリアがオフになっていても、撮影をするかレンズバリアを閉じると、自動的に解除されます。
- シャッターボタンを押した後に撮影を中止したいときは、▽ボタンを押してください。

中央部の明るさを優先して撮る（測光）

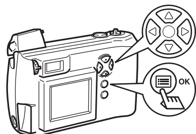
逆光のとき、通常の測光の測定値（デジタルESP測光）では撮りたいものが暗くなることがあります。この場合、スポット測光に変更すると、背景の光に影響されることなく、ファインダ中央部の明るさに合わせて撮影できます。

測光の設定

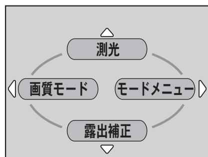
ESP（表示なし）	ファインダの中央部と周辺部を別々に測光して、最適な露出にします。
スポット（[•]）	ファインダの中央部のみを測光します。中央部の被写体に適正な露出にします。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



2 **ボタンを押して[測光]を選択します。**



3 **ボタンを押して[スポット]を選択し、ボタンを押します。**

スポット測光が設定され、メニューが終了します。
選択した設定が緑の枠で表示されます。



4 **ファインダ内の AF ターゲットマークに撮りたいものを合わせて撮影します。**



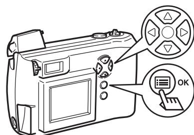
レンズバリアを閉じると、ESP（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」

連続で撮る（連写/AF連写）

シャッターボタンを押している間、最大約1.2コマ／秒で約11枚（連写モード、HQ使用時）の静止画を連続して撮影する機能です。連写とAF連写があります。連続した画像の中から好みの画像を選べるため、動いているものの撮影におすすめです。連写した後で不要な画像は、消去することもできます。「●1コマ消去（☞ P.99)」

連写　：最初の1コマで、ピントの明るさ(露出)、ホワイトバランスが固定されます。
AF 連写 ：1コマごとにピントが測定され、固定されます。連写速度は遅くなります。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**



- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。**

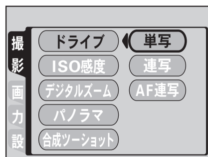


4 **ボタンを押して[ドライブ]を選択し、ボタンを押します。**



5 **⊙ ⊙ ボタンを押して[連写]または[AF連写]を選択し、⊜ ボタンを押します。**

連写またはAF連写が設定されます。
再び⊜ボタンを押すと、メニューを終了します。



6 **撮影します。**

シャッターボタンを押している間は連写が続きます。指をはなすと連写が止まります。



- レンズバリアを閉じると連写が解除されます。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」
- フラッシュは使用できません。
- 手ぶれを抑えるため、シャッター速度は最長 1/30 秒に設定されています。そのため暗い被写体は通常より暗く写る場合があります。
- 連写可能な枚数や連写のスピードは、被写体、画質、カードの残量などにより変わってきます。

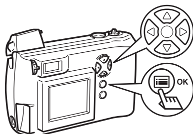


連写は、撮影画像の保存にしばらく時間がかかることがあります。

パノラマ撮影

当社製の標準カードを使うと、パノラマ撮影が簡単に楽しめます。被写体の端が重なるようにして撮影した何枚かの画像を、CAMEDIA Master（付属のCD－ROMに収録）でつなぎ合わせ、1枚のパノラマ合成画像を作成することができます。

1　撮影モードでトップメニューを表示します。



- レンズバリアを開けます。
- (OK) ボタンを押します。

2　ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

3　ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。



4　ボタンを押して[パノラマ]を選択し、ボタンを押します。

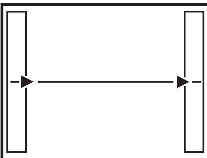
パノラマが設定されます。液晶モニタが自動的に点灯します。



5　十字ボタンでつなげる方向を指定します。

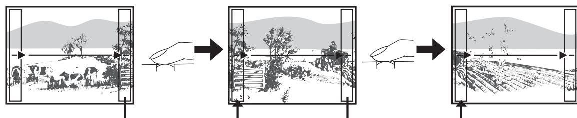
- ：次の画像を右につなげます。
- ：次の画像を左につなげます。
- ：次の画像を上につなげます。
- ：次の画像を下につなげます。

6　被写体の端が重なるように撮影します。



左から右へ画像をつなぐ撮影をする場合

最大10枚までパノラマ撮影が可能です。

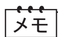


枠の中に前に撮った画像は残っていません。
つなげる部分が同じ画像になるように構図を設定してください。

10枚撮り終わると警告マークが表示されます。



7 終了するには ボタンを押してください。



ボタンを押すか、レンズバリアを閉じるとパノラマ撮影が解除されます。

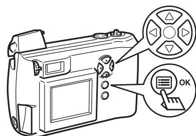
注意

- パノラマ合成機能付きのカード以外では、パノラマ撮影はできません。
- 露出・ホワイトバランスなどは、1枚目で決定されます。1枚目に太陽を入れた撮影などをしないでください。
- HQ/SHQモードで多量のパノラマ撮影をするとパソコンで合成するときにメモリ不足になることがありますので、SQモードでの撮影をおすすめします。
- パノラマ撮影中はフラッシュ、連写は使用できません。
- 画質モードを TIFF に設定してパノラマ撮影をすると、同じ記録サイズのJPEGで記録されます。
- パノラマ合成はカメラ本体ではできません。パノラマ合成画像を作成する場合は、CAMEDIA Masterをご使用ください。

合成ツーショット撮影

2回続けて撮影した画像を合成して、1枚の画像として保存します。別々の被写体を1枚の画像にして楽しむことができます。


再生時の画面



1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- (≡)OK ボタンを押します。

2 **▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **△ ▽ ボタンを押して[撮影]タブを選択し、▷を押します。**



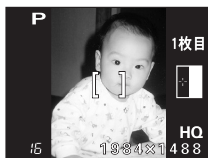
4 **△ ▽ ボタンを押して[合成ツーショット]を選択し、▷を押します。**

合成ツーショットが設定されます。液晶モニタが自動的に点灯します。



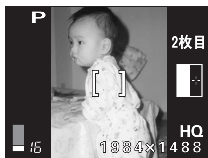
5 **液晶モニタを見ながら1回目を撮影します。**

撮影した被写体は左側に配置されます。



6 **続けて2回目を撮影します。**

撮影した被写体は右側に配置されます。



撮影時の画像



- ボタンを押すか、レンズバリアを閉じると合成ツーショットが解除されます。
- 合成ツーショット撮影中は連写は使用できません。
- 電池消耗時（ マーク表示）は、フラッシュが自動的にオフになります。
- 1枚撮影後、合成ツーショットを中止したいときは ボタンを押してください。1枚目に撮影した画像は記録されません。

第4章　画像・画質・露出の調整

画像のクォリティとサイズを変える（画質モード）

撮影する画像の画質を設定します。プリント用、パソコンでの加工用、ホームページ用など、用途に合わせて画質モードをお選びください。設定可能なモードや記録サイズ、またカードへの記録可能枚数については次頁の表をご参照ください。数値は目安です。

静止画の画質設定

画質モード	特徴	画質	データ容量
TIFF	最高画質モードです。非圧縮データとして保存されるので、プリントやパソコンで画像を加工する際に最適です。また、目的に応じて記録サイズを変更できます。画像の保存に時間がかかります。	きれい ↑	大きい ↑
SHQ（スーパーハイクォリティ）	JPEG形式の高画質モードです。圧縮率が低いため、高画質を維持することができます。 •きれいにプリントしたいとき。 •A4サイズなどに大きくプリントしたいとき。 •パソコンで画像を加工したいとき。 •高画質になるため、撮影可能枚数は少なくなります。		
HQ（ハイクォリティ）	標準レベルで圧縮された高画質モードです。SHQより圧縮率が高く、ファイルサイズが小さくなるので、より多くの画像を記録できます。 •パソコンで画像を編集するときや葉書大にプリントするとき。 •初期設定値です。		
SQ（スタンダードクォリティ）	SHQやHQより小さい記録サイズを選べるモードです。各記録サイズで「高画質（JPEGノイズを抑制）」または「標準（より多く撮影）」を選択できます。プリント用、ホームページ用など用途に合わせて、選んでください。 •メールに添付するときやパソコンで画像を見るとき。 •標準的な画質です。撮影可能枚数は多くなります。	↓ 普通	↓ 小さい
3:2	35ミリフィルムと同様に記録サイズの横X縦の比率を3:2 (1984 x 1312) で撮影します。ラボでプリントした時に画面が切れずにプリントできます。「TIFF」「高画質」「標準」を選ぶことができます。	ー	ー

画質モード	記録サイズ		圧縮	ファイル形式	カードの記録可能枚数（枚）		
					16MB	32MB	64MB
TIFF	1984x1488		非圧縮	TIFF	1	3	7
	1600x1200				2	5	11
	1280x960				4	8	17
	1024x768				6	13	27
	640x480				16	33	67
SHQ	1984x1488		低圧縮		7	15	30
HQ	1984x1488		標準	JPEG	21	43	86
SQ	1600x1200	高画質	*		11	23	46
		標準			32	64	128
	1280x960	高画質			18	36	72
		標準			49	99	199
	1024x768	高画質			27	55	110
		標準			76	153	306
	640x480	高画質			66	132	265
		標準			165	331	664
3:2	1984x1312	TIFF	非圧縮	TIFF	2	4	8
		高画質	*	JPEG	8	17	34
		標準			24	48	97

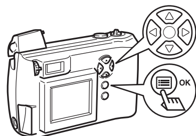
*高画質→低圧縮/標準→標準

ムービー画質モード

1枚のカードに記録できる全撮影時間（秒）

画質モード	使用カード／記録サイズ	16MB	32MB	64MB
HQ	320x240（15コマ/秒）	48	96	193
SQ	160x120（15コマ/秒）	211	424	849

一度の撮影（シャッターボタン全押し）で連続して撮影できる時間は異なります。



1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 ボタンを押して[画質モード]を選択します。

3 ボタンを押して画質を選択し、ボタンを押します。

静止画の場合は[3:2] [SHQ] [HQ] [SQ] [TIFF]から、ムービーの場合は[HQ] [SQ]から選択できます。



静止画の場合

4 [3:2] [SQ] [TIFF]を選択した場合は、ボタンを押してさらに詳細を選択します。

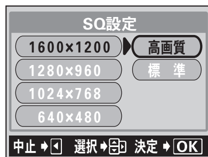
●[3:2]を選択したとき

ボタンを押して[TIFF] [高画質] [標準]から選択し、ボタンを押します。



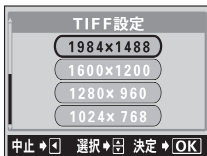
●[SQ]を選択したとき

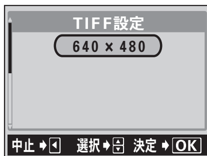
ボタンを押して記録サイズを選択後ボタンを押して［高画質］［標準］のいずれかを選択し、ボタンを押します。



第4章 画像・画質・露出の調整

●[TIFF]を選択したとき





△▽ボタンを押して記録サイズを選択し、OKボタンを押します。

再びOKボタンを押すと画質モードが設定され、メニューが終了します。

5 撮影します。



- レンズバリアを閉じると、画質の設定がHQ（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」
- 静止画の画質とムービーの画質は設定メニューが異なり、ムービーの画質を変更しても、静止画の画質は変更されません。

●画質モードと記録サイズの関係について

・記録サイズ

画像をカードに記録する際の大きさ（横の画素数×縦の画素数）です。画像をプリントするときは、大きなサイズで記録しておくときれいにプリントされます。ただし、記録サイズが大きくなるほどファイルサイズ（データの量）も大きくなり、カードに記録できる枚数は少なくなります。

・記録サイズとパソコンモニタ上での画像の大きさ

撮影した画像をパソコン上で見る場合に表示される画像の大きさは、パソコンのモニタ設定によって異なります。たとえば、1024×768ピクセルの記録サイズで撮影された画像は、パソコンのモニタ設定が1024×768のとき画像を等倍（100％）で表示すると、モニタ全体に表示されます。モニタ設定がそれ以上（1280×1024など）になると、モニタの一部にしか表示されません。

・圧縮率

TIFFモード以外の画質モードでは、画像を圧縮して保存します。圧縮率が高いほど画質は粗くなります

・ファイル形式

このカメラでは、TIFF、またはJPEGのどちらかの形式で保存されます。TIFFモード以外はすべてJPEG形式で保存され、圧縮率も異なります。

ISO感度を変える

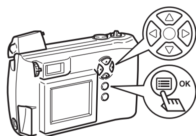
ISO感度は数値が大きいほど感度が高く、より暗いところ(光量が少ないところ)での撮影が可能になりますが、感度が高くなるにつれ電気的なノイズが増えて画像が粗くなります。

ISO感度の設定

オート（表示なし）	被写体の条件に合わせて自動的に感度が変わります。
100/200/400	通常100は、日中の撮影に最適でシャープな画像を撮ることができます。感度が高くなるにつれて、より暗いところで撮影ができます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[撮影]タブを選択し、ボタンを押します。**



4 **ボタンを押して[ISO感度]を選択し、ボタンを押します。**



第4章 画像・画質・露出の調整

5 ボタンを押して[オート][100][200][400]から選択し、ボタンを押します。



ISO感度が設定されます。
再びボタンを押すと、メニューが終了します。

6 撮影します。



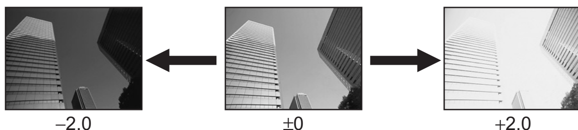
レンズバリアを閉じると、ISO感度がオート(初期設定)に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（P.115)」

注意

- 感度を高く設定するほど画像にノイズが増えます。
- 感度は銀塩写真のフィルム感度を基準に設定していますが、数値は目安です。
- ISO 感度がオートに設定されているとき、暗いところでフラッシュを使わずに撮影すると、シャッター速度が遅くなり手ぶれする可能性があるため自動的に感度が上がります。
- ISO 感度がオートに設定されているとき、被写体が遠くフラッシュ光が届かない場合、自動的に感度が上がります。

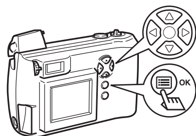
画像の明るさを変える（露出補正）

撮影する被写体によっては、カメラが自動的に設定した露出を補正したほうがよいときがあります。0.5段刻みで±2.0の範囲で設定できます。
通常、白い被写体(雪など)を撮影すると実際より暗く写ってしまいますが、[+]に補正することにより見たままの白を表現することができます。また、黒い被写体を撮影するときは、逆に[−]に補正すると効果的です。

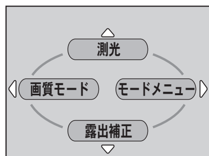


1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- (menu/OK) ボタンを押します。

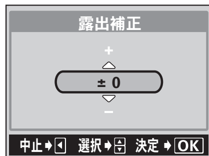


2 ▽ボタンを押して[露出補正]を選択します。



3 △▽ボタンを押して補正値を選択します。

プラス[+]で明るく、マイナス[−]で暗くなります。



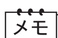


+2.0に設定したとき

4 **ボタンを押します。**

露出補正値が設定され、メニューが終了します。

5 **撮影します。**



- レンズバリアを閉じると、露出補正が±0（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」
- 液晶モニタを見ながら露出補正すると、表示されている画像の明るさも変わります。撮るものによっては変化がわかりにくい場合があります。そのときは画像を再生してご確認ください。



- フラッシュを使用すると意図した明るさ（露出）で撮影できないことがあります。
- 撮るものの周囲が極端に明るいときや極端に暗いときは、露出補正では補正しきれないことがあります。

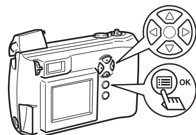
画像の色合いを調整する（ホワイトバランス）

被写体は光源によって色が変わります。たとえば、白い紙に晴天時の太陽があたっているとき、夕日があたっているとき、電球の灯りがあたっているときでは、それぞれの白が違います。ホワイトバランスを調整することにより、このような光源による微妙な色の違いを見たままの色に表現することができます。

ホワイトバランスの設定

オート（表示なし）	自然な色合いで写るよう自動的に調整します。
晴天(☼)	晴れた屋外で自然な色に写ります。
曇天(☁)	曇った屋外で自然な色に写ります。
電球(☼)	電球の灯りで自然な色に写ります。
蛍光灯( )	蛍光灯の灯りで自然な色に写ります。

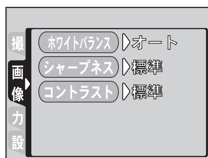
1 撮影モードでトップメニューを表示します。



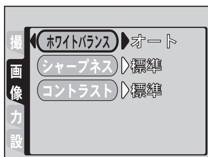
- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

3 ボタンを押して[画像]タブを選択し、ボタンを押します。

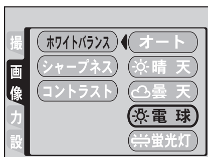


4 **◎◎ボタンを押して[ホワイトバランス]を選択し、◎ボタンを押します。**



5 **◎◎ボタンを押して[オート][晴天][曇天][電球][蛍光灯]から選択し、◎ボタンを押します。**

ホワイトバランスが設定されます。
再び◎ボタンを押すと、メニューが終了します。



6 **撮影します。**



- レンズバリアを閉じると、オート（初期設定）に戻ります。「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115）」
- 電球の下で見たままに近い雰囲気で撮りたいときなどは、[晴天]に設定すると効果的です。



- 特殊な光源下では、ホワイトバランスが思ったとおりに機能しない場合があります。
- オート以外のホワイトバランスに設定して撮影した場合、画像を再生して色を確認してください。
- オート以外のホワイトバランスに設定してフラッシュを発光した場合、液晶モニタで見た色と異なった色で撮影されることがあります。

画像の鮮鋭度を調節する（シャープネス）

被写体の輪郭をぼかしてソフトな(柔らかい)印象の画像を撮りたいとき、反対に輪郭を強調してシャープな(鮮鋭度が高い)印象の画像を撮りたいときに設定します。

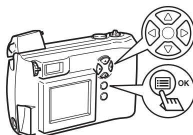
シャープネスの設定

ハード　被写体の輪郭がくっきりと写ります。建物や文字を撮るのに適しています。

標準　標準的な画像を撮ります。

ソフト　被写体の輪郭はあまり強調されません。パソコンでの加工に適しています。

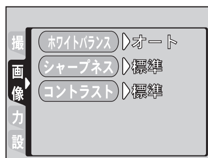
1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**



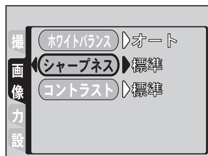
- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[画像]タブを選択し、ボタンを押します。**

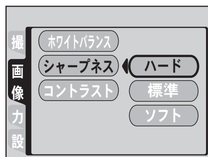


4 **ボタンを押して[シャープネス]を選択し、ボタンを押します。**



5 **ボタンを押して[ハード][標準][ソフト]から選択し、ボタンを押します。**

シャープネスが設定されます。
再びボタンを押すと、メニューが終了します。



6 **撮影します。**



レンズバリアを閉じると、シャープネスが標準(初期設定)に戻ります。
「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115)」

画画像の明暗の差を調節する（コントラスト）

画像のコントラスト（明暗の差）を調節します。明暗差の小さい画像にメリハリを出したり、明暗差の大きい画像を柔らかい仕上げにすることができます。

コントラストの設定

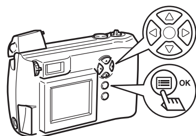
ハイ　明暗の差が大きく、メリハリの効いた画像になります。

標準　標準的な画像になります。

ロー　明暗の差が少なく、フラットな印象の画像になります。パソコンでの加工に適しています。

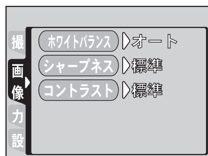
1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

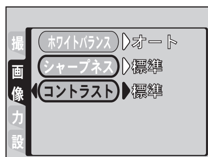


2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

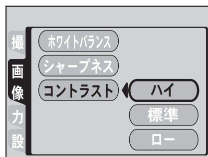
3 **ボタンを押して[画像]タブを選択し、ボタンを押します。**



4 **ボタンを押して[コントラスト]を選択し、ボタンを押します。**

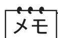


5 **◁△▷◁▽▷ボタンを押して[ハイ][標準][ロー]を選択し、Ⓞボタンを押します。**



コントラストが設定されます。
再びⓄボタンを押すと、メニューが終了します。

6 **撮影します。**



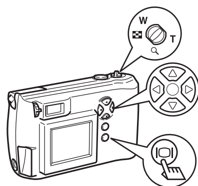
レンズバリアを閉じると、コントラストが標準(初期設定)に戻ります。
「電源を切っても設定を残す（設定クリア）（☞ P.115)」

第5章　再生

静止画の再生

液晶モニタに1コマずつ、撮影した画像を再生します。

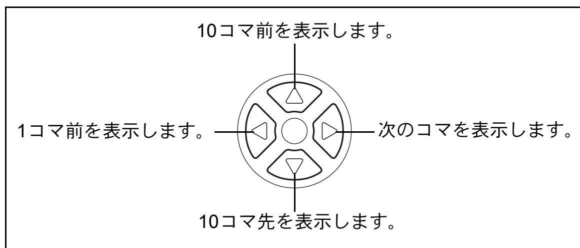
1 **レンズバリアを閉じた状態で (▣) ボタンを押します。**



液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）



2 **(△)(▽)(◁)(▷) ボタンを押します。**



3 **再生をやめるときは、(▣) ボタンを押します。**

液晶モニタが消灯して電源が切れます。



電源を入れた後に液晶モニタが一瞬光り、しばらくしてから画像が表示される場合があります。

●簡単再生（ダブルクリック再生）

撮影中にレンズバリアを開いたまま、画像を再生することができます。画像を再生して確認後、すぐに撮影に戻りたいときに便利です。

1　撮影モードで(◎)ボタンをすばやく2回押します。（ダブルクリック）

すぐに再生モードになり、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2　シャッターボタンを軽く押します（半押し）。

撮影モードに戻り、撮影することができます。



簡単再生で表示した画像は、通常の再生モードと同様に、各機能が使用できます。

●クローズアップ再生

液晶モニタに表示される画像を1.5倍、2倍、2.5倍、3倍、3.5倍、4倍と段階的に拡大表示します。撮った画像の細かい部分を確認したいときに便利です。

1　レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。

(◁)(▷)ボタンを押して、拡大表示する画像を選択してください。

2　ズームレバーをT側に引きます。



画像が1.5倍に拡大されます。

ズームレバーを引くごとに拡大して表示されます。拡大表示からズームレバーをW側に押すと1倍の大きさに戻ります。

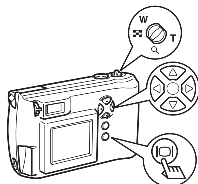
3　拡大表示中に(△)(▽)(◁)(▷)ボタンを押すと、画像をずらして表示することができます。



・ムービーは拡大再生できません。
・拡大した状態で画像を保存することはできません。

●インデックス再生

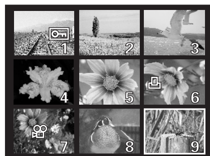
液晶モニタに複数の画像を一度に表示することができます。見たい画像をすばやく探したいときに便利です。一度に表示されるコマ数を4、9、16分割から選ぶことができます。「●インデックス再生のコマ数を変更するには（☞ P.91）」



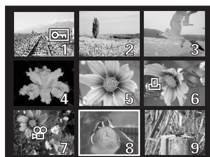
1 **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯し、最後に撮影した画像が表示されます。（1コマ再生）

2 **ズームレバーを W 側に押すとインデックス再生になります。**



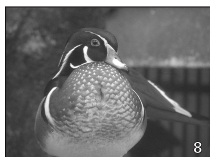
3 **十字ボタンで画像を選択します。**



選択された画像が緑の枠で囲まれます。

- ▷ ：1つ次のコマへ移動。
- ◁ ：1つ前のコマへ移動。
- △ ：左上の画像の1つ前までのインデックスを表示。
- ▽ ：右下の画像の次からのインデックスを表示。

4 **ズームレバーを T 側に引くと1コマ再生に戻ります。**

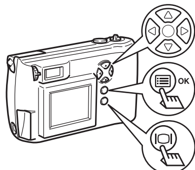


緑の枠で選択されていた画像が1コマで表示されます。

●インデックス再生のコマ数を変更するには

インデックス再生のコマ数を4コマ、9コマ、16コマの中から選択します。

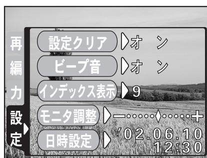
1 再生モードでトップメニューを表示します。



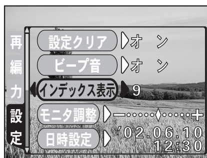
- レンズバリアを閉じて(◫)ボタンを押します。
- (▤)OK ボタンを押します。

2 ▷ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

3 △▽ボタンを押して[設定]タブを選択し、▷ボタンを押します。



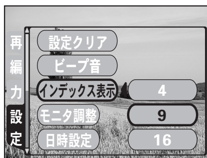
4 △▽ボタンを押して[インデックス表示]を選択し、▷ボタンを押します。



5 △▽ボタンを押して[4][9][16]から選択し、(▤)OK ボタンを押します。

インデックス再生のコマ数が設定されます。

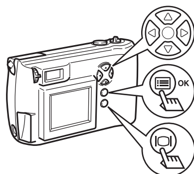
再度(▤)OK ボタンを押すと、メニューが終了します。



●自動再生

画像を順番に、自動的に表示します。撮った画像を順に見たいときに便利です。

1 再生モードでトップメニューを表示します。



- レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。
- (☰)ボタンを押します。

2 ◇ボタンを押して［自動再生］を選択すると、自動再生がスタートします。



1コマ3秒間表示され、自動的に次のコマに移ります。

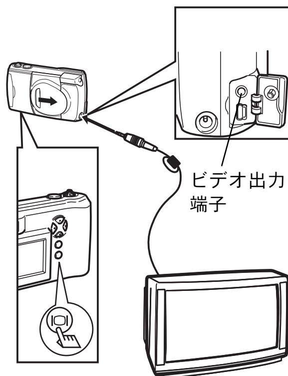
3 (☰)ボタンを押すと自動再生が中止され、再生モードに戻ります。



- ムービーを表示中に、トップメニューを表示すると［自動再生］のかわりに［ムービープレイ］が表示されます。自動再生を行う場合は、静止画を表示させてから操作してください。
- 電池を使用して自動再生している場合は、約30分間何も操作しないと自動的に電源がオフになります。

●テレビ再生

同梱のビデオケーブルでテレビに接続すると、テレビで画像を再生することができます。



1 **カメラとテレビの電源を切ってから、ビデオケーブルをカメラのビデオ出力端子とテレビのビデオ入力端子に差し込みます。**

2 **テレビの電源を入れて「ビデオ入力」に設定します。**

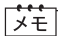
ビデオ入力の設定方法については、テレビの取扱説明書をご覧ください。

3 **ボタンを押します。**

再生モードで電源が入り、最後に撮影された画像がテレビに表示されます。

十字ボタンで再生する画像を選択できます。

「拡大再生」「インデックス再生」「自動再生」が楽しめます。



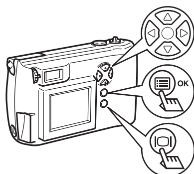
- ビデオケーブルを接続すると、液晶モニタの表示は消えます。
- テレビで再生する場合は、ACアダプタ(別売)のご使用をおすすめします。
- テレビの調整により、画像が画面中央からずれることがありますが、カメラの故障ではありません。



テレビとの接続には必ず付属のビデオケーブルをご使用ください。

●回転再生

カメラを縦に構えて撮影した画像は、横向きに表示されます。このような場合、回転再生を使って画像を縦向きに表示することができます。時計方向に90度、反時計方向に90度の回転ができます。
回転再生が設定された画像は、常に回転した状態で再生されます。



1 **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**
液晶モニタが点灯します。

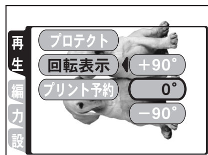
2 **(◁)(▷)ボタンを押して、回転させたい画像を表示させます。**

3 **(☰)ボタンを押して(▷)ボタンを押します。**
モードメニューが表示されます。



4 **(△)(▽)ボタンを押して[再生]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。**

5 **(△)(▽)ボタンを押して[回転表示]を選択し、(▷)ボタンを押します。**



6 **(△)(▽)ボタンを押して[+90°][−90°]から選択します。**
画像が回転して表示されます。
(☰)ボタンを2回押すと、メニューが終了します。
＋90°: 時計方向
－90°: 反時計方向

注意
- ムービーやパソコンで編集した画像、プロテクトされた画像は、回転できません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。

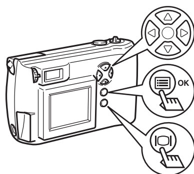
第5章 再生

ムービー再生



1 **レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

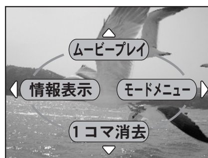


2 **◁▷ボタンを押して、再生したい🎥マークの付いた画像を表示させ、(▤)ボタンを押します。**

トップメニューが表示されます。

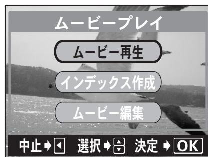


3 **△ボタンを押して［ムービープレイ］を選択します。**



4 **△▽ボタンを押して[ムービー再生]を選択して、(▤)ボタンを押します。**

ファインダ横のオレンジランプが点滅し、データが読み込まれた後ムービーが再生されます。再生が最後まで終わるとムービーの先頭に戻ります。



5 **ボタンを押します。**

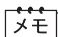
メニューが表示されます。
再生：　　もう一度再生します。
コマ送り：コマ送りをします。
中止：　　再生を中止します。



6 **ボタンを押して［再生］［コマ送り］［中止］を選択して、ボタンを押します。**

●[コマ送り]を選択したときの操作

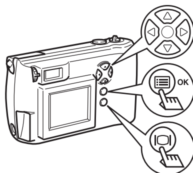
：ムービーの先頭のコマを表示します。
：ムービーの末尾のコマを表示します。
：ムービーのコマが進みます。押し続けると再生します。
：ムービーのコマが戻ります。押し続けると逆再生します。
：ムービー再生メニューが表示されます。



他のムービーを再生したいときは、ムービー再生メニューから[中止]を選択していったんムービー再生を終了します。次に、再生したい マークの付いたコマを表示させて、もう一度トップメニューから[ムービー再生]を選択してください。

画像の保護（プロテクト）

残しておきたい大切な画像は、プロテクト（保護）を設定してください。
1コマ消去や全コマ消去の操作をしても、プロテクトされた画像は消去されません。



1 **レンズバリアを閉じて(◫)ボタンを押します。**
液晶モニタが点灯します。

2 **◁ ▷ボタンを押して、プロテクトしたい画像を表示させます。**

3 **(▤)OK ボタンを押して▷ボタンを押します。**
モードメニューが表示されます。

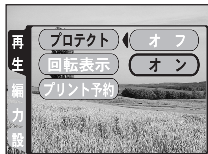
4 **△ ▽ボタンを押して[再生]タブを選択し、▷ボタンを押します。**



5 **△ ▽ボタンを押して[プロテクト]を選択し、▷ボタンを押します。**



6 **△ ▽ボタンを押して[オン]を選択し、(▤)OK ボタンを押します。**
プロテクトが設定されます。
再度(▤)OK ボタンを押すと、メニューが終了します。





- プロテクトが設定された画像には O‒π マークが表示されます。



- 電源をOFFにしても、プロテクトの設定は保存されます。

注意

- プロテクトされた画像は1コマ消去/全コマ消去できませんが、フォーマットを行うとすべて消去されます。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードはプロテクト操作できません。

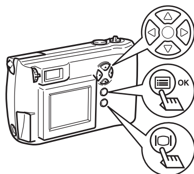
画像の消去

撮影した画像を消去します。再生している1コマのみを消去する1コマ消去とカード内の全ての画像を消去する全コマ消去があります。

注意

- 消去したい画像がプロテクトされている場合、またはカードにライトプロテクトシールが貼ってある場合は消去できません。画像のプロテクトを解除する、またはライトプロテクトシールをはがす、などの操作を行ってから消去してください。
- 消去した画像は元に戻せません。消去する前に、大切なデータを消さないように十分に注意してください。「画像の保護（プロテクト）（☞ P.97）」

●1コマ消去



1 **レンズバリアを閉じて(▣)ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **△▽◁▷ボタンを押して、消去したい画像を表示させます。**

「静止画の再生（☞ P.88）」

3 **(≡)OKボタンを押します。**

トップメニューが表示されます。

4 **▽ボタンを押して[1 コマ消去]を選択します。**

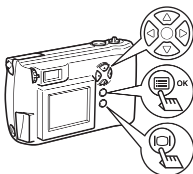


5 **△▽ボタンを押して[消去]を選択して(≡)OKボタンを押します。**

画像が消去され、メニューが終了します。



●全コマ消去



1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて (ディスプレイ) ボタンを押します。
- (メニュー OK) ボタンを押します。

2 **(右) ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **(上)(下) ボタンを押して[カード]タブを選択し、(右) ボタンを押します。**



4 **(右) ボタンを押します。**



5 **(上)(下) ボタンを押して[全コマ消去]を選択して、(メニュー OK) ボタンを押します。**



6 **(上) ボタンを押して［ 消去 ］を選択して、(メニュー OK) ボタンを押します。**

すべての画像が消去されます。

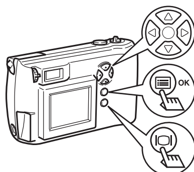


第5章 再生

静止画の編集

●モノクロ作成

撮影した画像からモノクロ画像を作成します。



1 **レンズバリアを閉じて ボタンを押します。**

液晶モニタが点灯します。

2 **ボタンを押して、モノクロにしたい画像を表示します。**

3 **ボタンを押して ボタンを押します。**

モードメニューが表示されます。

4 **ボタンを押して[編集]タブを選択し、 ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[モノクロ作成]を選択し、 ボタンを押します。**



6 **ボタンを押して[新規作成]を選択し、 ボタンを押します。**

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたモノクロ画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して ボタンを押してください。



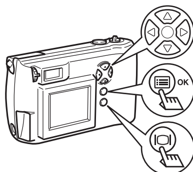
注意

- ムービーはモノクロにすることができません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

第5章 再生

●セピア作成

撮影した画像からセピア画像を作成します。



1　レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。

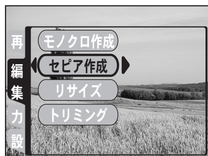
液晶モニタが点灯します。

2　(◁)(▷)ボタンを押して、セピアにしたい画像を表示します。

3　(▤)ボタンを押して(▷)ボタンを押します。

モードメニューが表示されます。

4　(△)(▽)ボタンを押して[編集]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。



5　(△)(▽)ボタンを押して[セピア作成]を選択し、(▷)ボタンを押します。

6　(△)(▽)ボタンを押して[新規作成]を選択し、(▤)ボタンを押します。

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。作成されたセピア画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して(▤)ボタンを押してください。



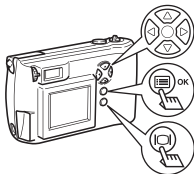
注意

- ムービーはセピアにすることができません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

第5章 再生

●リサイズ

選択した画像のサイズを640×480、または320×240に変更して別の画像として保存します。メールに添付して送る場合など画像のデータ容量を小さくしたいときにお使いください。



1　レンズバリアを閉じて(▣)ボタンを押します。

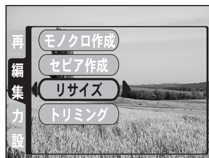
液晶モニタが点灯します。

2　(◁)(▷)ボタンを押して、リサイズしたい画像を表示します。

3　(≣)OKボタンを押して(▷)ボタンを押します。

モードメニューが表示されます。

4　(△)(▽)ボタンを押して[編集]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。



5　(△)(▽)ボタンを押して[リサイズ]を選択し、(▷)ボタンを押します。

6　(△)(▽)ボタンを押して[640×480][320×240]から選択し、(≣)OKボタンを押します。



作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。

リサイズされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。

編集をやめるときは[中止]を選択して(≣)OKボタンを押してください。

注意

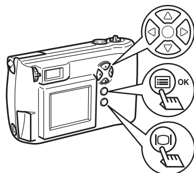
- ムービーやパソコンで編集した画像は、リサイズできません。
- 選択した画像サイズが640×480以下の場合は、メニューの[640×480]は選択できません。
- 選択した画像サイズが320×240の場合は、メニューの[リサイズ]は選択できません。
- ライトプロテクトシールの貼っているカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

●トリミング

撮影した画像の一部を拡大して別ファイルで保存します。

1 レンズバリアを閉じて (◎) ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。



2 ◁ ▷ ボタンを押して、トリミングしたい画像を表示します。

3 (≡)OK ボタンを押して ▷ ボタンを押します。

モードメニューが表示されます。

4 △ ▽ ボタンを押して[編集]タブを選択し、▷ ボタンを押します。

5 △ ▽ ボタンを押して[トリミング]を選択し、▷ ボタンを押します。



6 **△▽ボタンを押して[新規作成]を選択し、OKボタンを押します。**

トリミングのサイズを決める画面が表示されます。

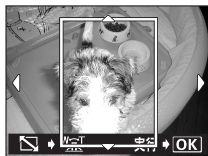
トリミングをやめるときは［中止］を選択してOKボタンを押してください。



7 **十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。**

△▽◁▷ボタンを押してトリミングする位置を移動し、ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。





8 **OKボタンを押します。**

設定されたトリミング画像が 1 秒間表示されます。

9 **△ ▽ ボタンを押して[決定]を選択し、 OKボタンを押します。**

作成中を示すバーが表示された後、再生モードに戻ります。
トリミングされた画像は元の画像とは別の画像として保存されます。



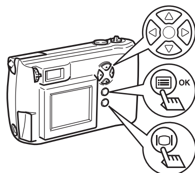
トリミングをやり直す場合は［ 再設定 ］を選択して OK ボタンを押します。手順 7 からやり直します。
トリミングをやめるときは［ 中止 ］を選択して OK ボタンを押してください。

注意
- ムービーはトリミングできません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。
- トリミングできるサイズは元の画像の1/2の大きさまでです。

ムービーの編集

●ムービーインデックス

撮影したムービーの内容が一目でわかるようにムービーを9分割して画面に表示し、1つの画像として保存（インデックス作成）することができます。



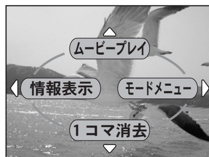
1 レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

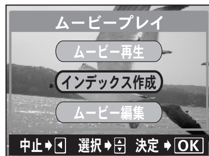
2 ◁▷ボタンを押して、マークの付いた画像を表示させ、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

3 △ボタンを押して[ムービープレイ]を選択します。



4 △▽ボタンを押して[インデックス作成]を選択し、OKボタンを押します。



5 インデックスの先頭のコマを選択します。

△▽◁▷ボタンを押しながら、選択枠内に先頭コマにしたい画像が表示されるまで再生してOKボタンを押します。



第5章 再生

6 **インデックスの後尾のコマを選択します。**



手順 5 と同様に、ボタンを押しながら、選択枠内に後尾コマにしたい画像が表示されるまで再生してボタンを押します。

7 **ボタンを押して[決定]を選択し、ボタンを押します。**



ムービーから抜き出された9コマの画像がインデックス表示された後、再生モードに戻ります。作成された画像は新規の画像として保存されます。
コマ指定をやり直す場合は [再設定] を選択してボタンを押します。手順 5 からやり直します。
インデックス作成をやめるときは [中止] を選択してボタンを押してください。


メモ

インデックス作成された画像は、ムービー撮影時の画質とは異なる静止画として保存されます。

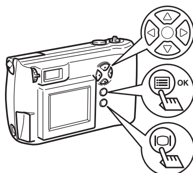
ムービー撮影時の画質モード	インデックス画像の画質
HQ	SQ1（1024×768ピクセル）
SQ	SQ2（640×480ピクセル）

注意

- ムービーの記録時間により、自動的に抜き出される画像の間隔は異なります。
- インデックス作成されるコマ数は、9 コマです。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足しているときは作成することはできません。

●ムービー編集

撮影したムービーの編集ができます。必要な部分を切り出して短いムービーにすることができます。



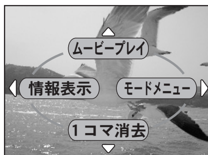
1 レンズバリアを閉じて◎ボタンを押します。

液晶モニタが点灯します。

2 ◁▷ボタンを押して、ムービーマークの付いた画像を表示させ、OKボタンを押します。

トップメニューが表示されます。

3 △ボタンを押して[ムービープレイ]を選択します。



4 △▽ボタンを押して[ムービー編集]を選択し、OKボタンを押します。



5 ムービーの残したい部分の先頭のコマを選びます。

◁▷ボタンを押しながらムービーを再生し、先頭コマにしたいショットを表示してOKボタンを押します。



6 **ムービーの残したい部分の最後のコマを選びます。**

手順5と同様に、◁ ▷ ボタンを押しながら再生し、後尾コマにしたいショットを表示して ⊜OK ボタンを押します。



7 **△ ▽ ボタンを押して[決定]を選択し、⊜OK ボタンを押します。**

コマ指定をやり直す場合は[再設定]を選択して ⊜OK ボタンを押します。手順5からやり直します。
インデックス作成をやめるときは[中止]を選択して ⊜OK ボタンを押してください。



8 **△ ▽ ボタンを押して[新規作成]または[上書き保存]を選択し、⊜OK ボタンを押します。**

新規作成　編集したムービーを別の名前で新しいムービーとして保存します。
上書き保存　編集したムービーを元のムービーの名前で保存します。元のムービーは失われます。



編集されたムービーが新規作成または上書き保存され、再生モードに戻ります。

注意
- 他のカメラで撮影した音声付きのムービーは編集できません。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードは操作できません。
- カードの空き容量が不足している場合は、[新規作成]は選択できません。

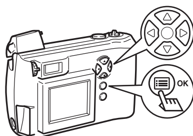
第6章　カメラの便利機能

警告音を消す（ビープ音）

カメラのボタン操作音や警告音を消すことができます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

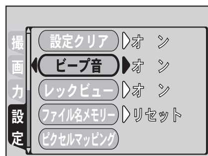
- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



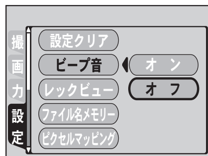
2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

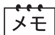
3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[ビープ音]を選択し、ボタンを押します。**



5 **ボタンを押して[オフ]を選択し、ボタンを押します。**
再度ボタンを押すと、メニューが終了します。





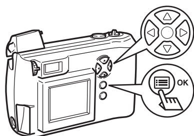
- レンズバリアを閉じても、ビープ音の設定は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定することができます。

フォーマットする（カードセットアップ）

カードをフォーマットします。フォーマットとは、カードをこのカメラで書き込みできるように初期化することです。当社製以外のカードやパソコンでフォーマットしたカードを使用する場合は、必ずこのカメラでフォーマットしてください。

注意　プロテクトされた画像もすべて消去されます。消去された画像は元に戻りませんので、十分に注意してください。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**



- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

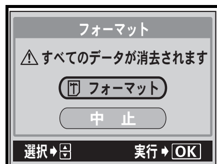
3 **ボタンを押して[カード]タブを選択し、ボタンを押します。**



4 **ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[フォーマット]を選択し、ボタンを押します。**

フォーマットされます。



第6章　カメラの便利機能

メモ

再生モードからも同じ手順でフォーマットすることができます。

注意

- フォーマット中は絶対にカードカバーを開けたり、電池を取り外したりしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- フォーマット中は AC アダプタの抜き差しをしないでください。カードが正常に動作しなくなるおそれがあります。
- 当社製テンプレートカード（別売）をフォーマットすると、カード中のテンプレート情報は失われます。テンプレートカード中の画像データをパソコンにバックアップすることをお勧めします。詳しくはテンプレートカードの説明書をお読みください。
- ライトプロテクトシールが貼ってあるカードはフォーマットできません。シールをはがしてからフォーマットしてください。はがしたシールは再使用しないでください。

撮影後すぐに画像を確認する（レックビュー）

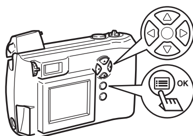
撮影した直後に、記録中の画像を液晶モニタに3秒間表示させて確認することができます。

レックビューの設定

[オン] 撮影した画像を記録中、液晶モニタに表示します。撮影した画像の簡単なチェックに便利です。またレックビュー中でもシャッターボタンを半押しするとすぐに次の撮影に入れます。

[オフ] 記録中の画像は表示されません。次の撮影のために被写体を追いながら撮影する場合に便利です。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

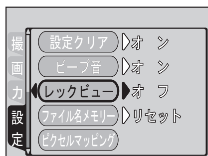


- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

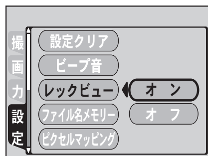
3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

4 **ボタンを押して[レックビュー]を選択し、ボタンを押します。**



5 **ボタンを押して[オン]を選択し、ボタンを押します。**

レックビューが設定されます。
再度ボタンを押すと、メニューが終了します。





- レンズバリアを閉じても、レックビューの設定は保持されます。
- 連写中、レックビューはされません。

電源を切っても設定を残す（設定クリア）

フラッシュや画質など、電源を切った後も変更した撮影条件の設定値を保持することができます。保持される機能については、次項の「設定クリアが適用される機能」を参照してください。

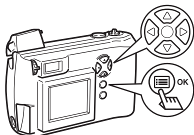
設定クリアの設定

[オン] 電源を切ると変更した設定値は初期設定に戻ります。

[オフ] 電源を切っても変更した設定値は保持されます。

1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

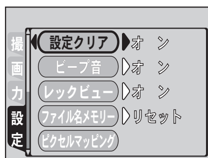
- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

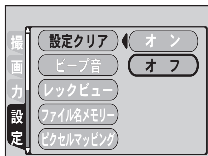
設定メニューが表示されます。



4 **ボタンを押して[設定クリア]を選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押して[オフ]を選択し、ボタンを押します。**

再度ボタンを押すと、メニューが終了します。





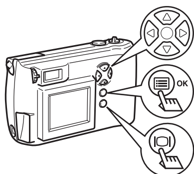
- 電源を切っても、設定メニュー項目の設定値は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定できます。

●設定クリアが適応される機能

機能名	初期設定	参照頁
液晶モニタ	オフ（消灯）	P.27
撮影モード	Pオート（プログラム撮影）	P.43
ドライブ	単写（静止画）	P.67
デジタルズーム	オフ（等倍）	P.57
フラッシュ	オート	P.59
露出補正	±0	P.80
測光	ESP	P.66
ホワイトバランス	オート	P.82
画質	HQ（1984×1488ピクセル）	P.73
AF	AF	P.50, 62
ISO感度	オート	P.78
シャープネス	標準	P.84
コントラスト	標準	P.86

画像の詳細情報を表示する（情報表示）

再生時に画像の詳細情報を 3 秒間表示することができます。表示される情報の内容については「液晶モニタの表示（☞ P.16）」を参照してください。



1 再生モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。
- (▤)OK ボタンを押します。

2 ◁ボタンを押すと詳細情報が表示されます（オン）。

(▤)OK ボタンを押し、もう一度トップメニューを表示させて◁ボタンを押すと詳細情報は表示されなくなります（オフ）。



情報表示オフのとき



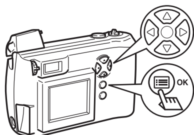
情報表示オンのとき



- 情報表示がオン／オフどちらの場合でも、🔑、🎥、🖨 は表示されます。
- DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される場合に指定するファイル番号は、情報表示をオンにしたときに表示されます。「プリントについて（☞ P.124）」

液晶モニタの明るさを変更する（モニタ調整）

周囲の状況に合わせて液晶モニタの明るさを調整し、より見やすくすることができます。



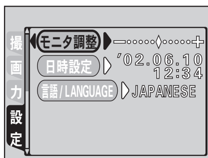
1 撮影モードでトップメニューを表示します。

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。

2 ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。

3 ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。

4 ボタンを押して[モニタ調整]を選択し、ボタンを押します。



5 液晶モニタを見ながら ボタンを押して、明るさを調整します。

ボタンを押すと明るくなり、ボタンを押すと暗くなります。



6 ボタンを押します。

モニタ調整が設定されます。

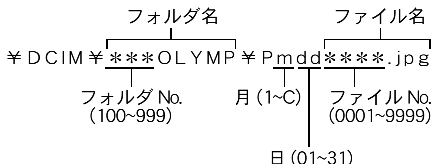
もう一度ボタンを押すと、メニューが終了します。



- レンズバリアを閉じても、モニタ調整の設定は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定することができます。

ファイル名をリセットする（ファイル名メモリー）

記録される画像に、ファイル名とそのファイルが入るフォルダ名がカメラ内部で自動的に生成されます。ファイル名とフォルダ名はそれぞれファイルNo.(0001-9999)、フォルダNo.（100-999）を含み、以下のように付けられます。



・ファイル名の「月」の表記は、1 月～ 9 月は 1 ～ 9、10 月は A、11 月はB、12 月はC となります。

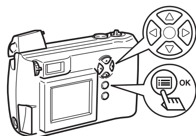
フォルダNo.とファイルNo.の付け方は、[リセット][オート] の 2 種類あります。パソコンで画像を撮りこむ際に、扱いやすい方をお選びください。

ファイル名メモリーの設定

リセット　カードを入れ替えたときにフォルダNo.、ファイルNo.が両方ともリセットされます。フォルダNo.は「No.100」に、ファイルNo.は「No.0001」に戻ります。カード別に画像を管理するときに便利です。

オート　カードを入れ替えても、フォルダNo.、ファイルNo.とも前のカードから継続されます。複数のカードを管理するときでも、ファイル名が重複することがありません。全ての画像を通し番号で管理するのに便利です。

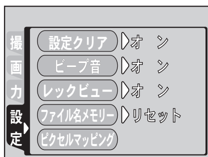
1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**



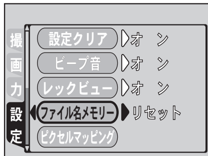
- レンズバリアを開けます。
- (≡)OK ボタンを押します。

2 **◇ボタンを押して [モードメニュー] を選択します。**

3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**

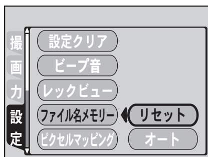


4 **ボタンを押して[ファイル名メモリー]を選択し、ボタンを押します。**



5 **ボタンを押して[リセット][オート]から選択し、ボタンを押します。**

再度ボタンを押すと、メニューが終了します。



メモ

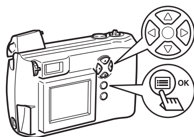
レンズバリアを閉じても、ファイル名メモリーの設定は保持されます。

画像処理機能をチェックする(ピクセルマッピング)

CCD と画像処理機能のチェックと調整を同時に行います。
この機能は、すでに工場出荷時に調整済みのため、お買い上げ後すぐに調整する必要はありません。調整は、年に一度を目安とし、最適な効果を得るため、撮影・再生直後より 1 分ほどの時間を空けた後に実行します。

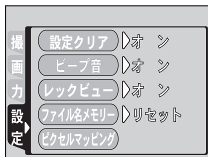
1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



2 **ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

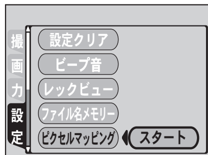
3 **ボタンを押して[設定]タブを選択し、ボタンを押します。**



4 **ボタンを押して[ピクセルマッピング]を選択し、ボタンを押します。**

5 **ボタンを押します。**

ピクセルマッピング実行中のバーが表示されます。終了するとモードメニューに戻ります。



注意

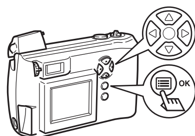
- 誤って処理中にカメラの電源を切ってしまった場合は、必ずもう一度このチェックを行ってください。
- ピクセルマッピングの処理中は、絶対にカメラから電池や AC アダプタを抜かないでください。故障の原因になります。

カメラで表示する言語を切り替える(言語／LANGUAGE)

カメラの液晶画面の表示を日本語表示から英語表示に切り替えることができます。

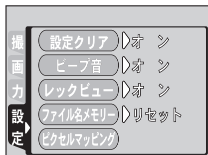
1 **撮影モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを開けます。
- ボタンを押します。



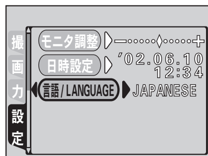
2 **ボタンを押して［モードメニュー］を選択します。**

3 **ボタンを押して［設定］タブを選択し、ボタンを押します。**



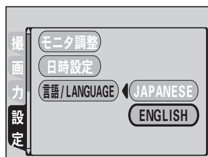
4 **ボタンを押して［言語／LANGUAGE］を選択し、ボタンを押します。**

この項目は［設定］メニューの2ページ目にあります。



5 **ボタンを押して[ENGLISH]を選択し、ボタンを押します。**

英語表示に切り替わります。
日本語表示に戻す場合は［日本語］を選択します。
再度ボタンを押すと、メニューが終了します。

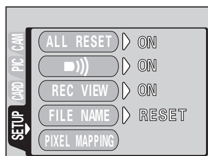


●英語表示から日本語表示に戻すには

1 撮影モードでトップメニューを表示します。

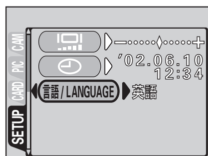
2 ボタンを押して[MODE MENU]を選択します。

3 ボタンを押して[SETUP]タブを選択し、ボタンを押します。



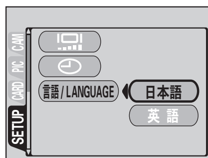
4 ボタンを押して［言語／LANGUAGE］を選択し、ボタンを押します。

この項目は［SETUP］メニューの 2 ページ目にあります。



5 ボタンを押して[日本語]を選択し、ボタンを押します。

再度ボタンを押すと、メニューが終了します。



注意
- レンズバリアを閉じても、言語／LANGUAGEの設定は保持されます。
- 再生モードからも同じ手順で設定できます。

第7章　プリント予約

プリントについて

画像をプリントするには、以下の方法があります。

●プリント予約を設定してDPOF対応のお店でプリント、またはDPOF対応のプリンタでプリント

カードにプリント予約をします。プリント予約とは、カード内の画像に、プリントする枚数や日付を印刷する指定を記憶させることです。

•DPOF とは

Digital Print Order Formatの略称。デジタルカメラの自動プリントアウト情報を記録する形式です。

プリント予約したカードをDPOF対応のお店に持っていくと、その予約内容のとおりにプリントできます。家庭でもDPOF対応のプリンタがあれば、可能です。

●オリンパス製デジタルプリンタCAMEDIA P-400/P-200/P-330Nでプリント

パソコンを使わずに、専用プリンタにカードを直接差し込んでプリントできます。詳しくはお使いのプリンタの取扱説明書をご覧ください。

●画像をパソコンに転送して、パソコンに接続しているプリンタでプリント

パソコン上でJPEGの画像を表示するソフトウェア（インターネット閲覧ソフトやペイントソフトなど）があれば、パソコンに接続したプリンタでプリントすることができます。（CAMEDIA Masterを使ってもプリントできます。）お使いのソフトウェアでプリントできることをあらかじめご確認ください。詳しくはお使いのソフトウェアの取扱説明書をご覧ください。

DPOF を使用せずにプリントサービスを利用される方へ

写真店などのプリントサービスをご利用になる場合は、プリントする画像は必ずファイル番号で指定してください。コマ番号で指定すると間違った画像がプリントされる場合があります。
ファイル番号は情報表示をオンにしたときに表示されます。
（例） FILE: 100-0016

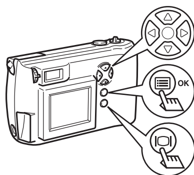
フォルダの通し番号　画像の通し番号

注意

- 他のDPOF機器で設定されたDPOF予約内容をこのカメラで変更することはできません。予約した機器で変更してください。
- 他の機器でDPOF予約されているファイルがある場合、このカメラで新たにDPOF予約を行うと、以前に予約した内容は消去されます。
- 当社製デジタルプリンタ P-300 など、カメラに直接プリンタを接続してダイレクトプリントを行うプリンタでは、プリントできません。
- プリンタまたはラボにより、一部機能が制限されることがあります。
- P-330Nで印刷する場合、カード内に記録された999枚目以降の画像はプリントできません。
- プリント予約は、カードに予約を記録するときに時間がかかることがあります。

全コマ予約

カードの中の全画像をプリント予約します。プリントする枚数と撮影日時のプリントを指定することができます。



1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。
- (▤)ボタンを押します。

2 **ボタンを押して［モードメニュー］を選択します。**

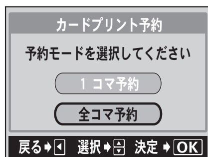
3 **ボタンを押して[再生]タブを選択し、ボタンを押します。**



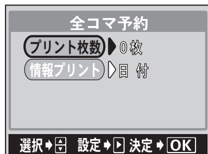
4 **ボタンを押して[プリント予約]を選択し、ボタンを押します。**

すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。「プリント予約を解除する（☞ P.133)」

5 **ボタンを押して、［全コマ予約］を選択し、(▤)ボタンを押します。**



6 **ボタンを押して、［プリント枚数］［情報プリント］から選択し、ボタンを押します。**



7 プリント枚数、情報プリントの設定を行います。

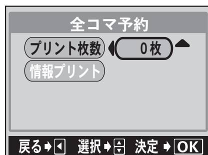
●プリント枚数を設定するには

ボタンを押してプリント枚数を設定し、ボタンを押します。

続けて情報プリントを設定するにはプリント枚数設定後ボタンを押して手順 6 に戻ります。

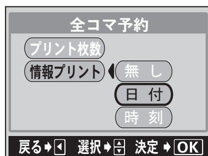
ボタン ：枚数が増えます。

ボタン ：枚数が減ります。



●情報プリントを設定するには

ボタンを押して[無し][日付][時刻]から選択し、ボタンを押します。



無し　画像のみプリントされます。

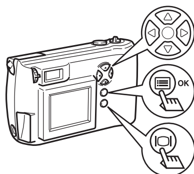
日付　全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。

時刻　全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

プリント枚数、情報プリントの設定後、ボタンを押すと、再生メニューに戻ります。

1コマ予約

選択した画像のみをプリント予約します。プリントするコマを表示してプリント枚数を設定します。



1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

- レンズバリアを閉じて(◎)ボタンを押します。
- (☰)ボタンを押します。

2 **(▷)ボタンを押して[モードメニュー]を選択します。**

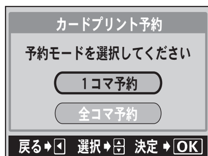
3 **(△)(▽)ボタンを押して[再生]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。**



4 **(△)(▽)ボタンを押して[プリント予約]を選択し、(▷)ボタンを押します。**

すでにプリント予約した画像がある場合は、その予約設定を残すか解除するか選択する画面が表示されます。「プリント予約を解除する（☞ P.133)」

5 **(△)(▽)ボタンを押して、[1コマ予約]を選択し、(☰)ボタンを押します。**



6 **(◁)(▷)ボタンを押してプリントしたい画面を表示させ、(☰)ボタンを押します。**

インデックス再生して画像を選択することもできます。「●インデックス再生（☞ P.90)」



7 プリント予約したい内容に応じて、△▽◁▷ボタンで項目を選択します。



詳細予約　プリント枚数、情報プリント、トリミングを設定します。→手順8

1枚予約　プリント枚数が1枚の設定のみです。情報プリント、トリミングの設定はありません。→手順10

予約解除　プリント予約を解除します。→手順10

予約終了　プリント予約を終了します。→手順11

8 △▽ボタンを押して、[プリント枚数][情報プリント][トリミング]から選択し、▷ボタンを押します。



9 プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定を行います。

●プリント枚数を設定するには

△▽ボタンを押してプリント枚数を設定し、OKボタンを押します。

続けて情報プリント、トリミングの設定をするにはプリント枚数、設定後◁ボタンを押して手順8に戻ります。

△ボタン　：枚数が増えます。

▽ボタン　：枚数が減ります。



●情報プリントを設定するには

⊚ ⊚ボタンを押して［無し］［日付］［時刻］を選択し、⊜ボタンを押します。



無し　画像のみプリントされます。
日付　全ての画像に撮影年月日が付加されてプリントされます。
時刻　全ての画像に撮影時刻が付加されてプリントされます。

●トリミングをするには

「●トリミング（☞ P.104)」

プリント枚数、情報プリント、トリミングの設定後、◁ボタンを押すと、手順6の画面に戻ります。

10 **⊜ボタンを押して1コマ予約メニュー画面を表示させます。**

11 **◁ボタンを押して［予約終了］を選択します。**



カードプリント予約画面に戻ります。
再度◁ボタンを押すと予約確認の画面が表示され、もう一度◁ボタンを押すと、再生メニューに戻ります。
プリント予約した画像がない場合は予約確認の画面は表示されません。

トリミング

撮影した画像の一部を拡大してプリントします。

1 **1コマ予約画面で⊲△⊳ ⊲▽⊳ボタンを押して[トリミング]を選択し▷ボタンを押します。**

「1コマ予約（☞ P.128）」



2 **⊲△⊳ ⊲▽⊳ボタンを押して[設定]を選択し、(≡)OKボタンを押します。**



すでにトリミングが設定されている場合は、トリミング画面が表示されますので、⊲△⊳ ⊲▽⊳ボタンを押して[再設定]を選択し、(≡)OKボタンを押します。



決定	設定されているトリミングを保存します。1コマ予約画面に戻ります。
再設定	再度トリミングをし直します。→手順3
解除	設定されているトリミングを解除します。1コマ予約画面に戻ります。

3 **十字ボタンとズームレバーを使って、トリミングの位置とサイズを決めます。**

⊲△⊳ ⊲▽⊳ ◁ ▷ボタンを押してトリミングする位置を移動し、ズームレバーをW側またはT側に動かしてトリミングのサイズを決めます。



4  ボタンを押します。

設定されたトリミング画像が1秒間表示されます。

5  ボタンを押して[決定]を選択し、 ボタンを押します。



作成中を示すバーが表示された後、1コマ予約画面に戻ります。

トリミングをやり直す場合は[再設定]を選択して ボタンを押します。手順3からやり直します。

トリミングをやめるときは[中止]を選択して ボタンを押してください。

6  ボタンを押すとプリント予約が設定され、画像の選択に戻ります。再び  ボタンを押します。

7 ボタンを押して[予約終了]を選択します。

再度 ボタンを押すとカードプリント予約画面に戻ります。

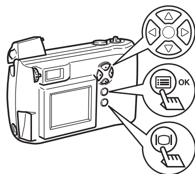


注意

- プリントされる画像の大きさは、プリンタの設定によります。トリミングの大きさが小さいと、プリントするときの拡大率が大きくなるため、プリント画像は粗くなります。
- 詳細なクローズアッププリントを行うためには、TIFF、SHQ、HQの画質モードでの撮影をお勧めします。「画像のクォリティとサイズを変える（画質モード）（☞ P.73）」
- 元の画像はトリミングされていません。トリミングに対応していないプリンタでは、通常のプリントになります。
- トリミングを設定した画像を回転再生しないでください。トリミングで指定した範囲がかわります。「●回転再生（☞ P.94）」

プリント予約を解除する

カード内の全ての画像のプリント予約を解除します。



1 **再生モードでトップメニューを表示します。**

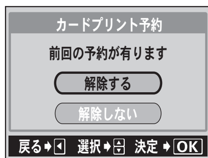
- レンズバリアを閉じて(◎)を押します。
- (▤)OK ボタンを押します。

2 **(▷)ボタンを押して［モードメニュー］を選択します。**



3 **(△)(▽)ボタンを押して[再生]タブを選択し、(▷)ボタンを押します。**

4 **(△)(▽)ボタンを押して[プリント予約]を選択し、(▷)ボタンを押します。**



5 **(△)(▽)ボタンを押して[解除する]を選択し、(▤)OK ボタンを押します。**

プリント予約した画像がない場合は、この画面は表示されません。
カードプリント予約画面が表示されます。
プリント予約をやめるときは(◁)ボタンを押して再生メニューに戻ります。

第8章　困ったときは

こんな表示がでたら

液晶モニタ表示	原因	こうしましょう
カードを認識できません	カードが入っていません。または認識できません。	カードを入れてください。またはカードを正しく入れなおしてください。
このカードは使用できません	撮影・再生・消去することができません。	市販のクリーニングペーパーでカードの金色の金属部分を拭いて、もう一度カードを入れてください。それでもこの表示が消えないときはカードをフォーマットしてください。フォーマットできない場合、このカードはご使用になれません。
書き込み禁止になっています	カードが書込み禁止になっています。	撮影する場合はカードのプロテクトシールをはがしてください。 詳しくはカードの取扱説明書をご覧ください。
撮影可能枚数が0です	カードの撮影可能枚数が0のため、撮影できません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カード残量がありません	カードに空き容量がなく、プリント予約やファンクション撮影など新たな記録をすることができません。	カードを交換するか、不要な画像を消してください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。
カードに 画像が記録されていません	カードに記録画像がないため画像が再生できません。	カードに画像が入っていません。撮影してから再生してください。
この画像は再生できません	選択した画像が再生できません。	パソコンの画像ソフトなどで再生してください。それでも再生できない場合は、画像ファイルの一部が壊れています。

カードセットアップ 電源オフ フォーマット 選択 実行 OK	カードがフォーマットされていません。	カードをフォーマットしてください。

故障かな？と思ったら

●うまく操作ができない

カメラが動かない、またはボタンを押しても動かない		
原因	こうしましょう	参照ページ
電源が切れている	レンズバリアを開いて、電源を入れてください。	P.27
電池の向きが正しくない	電池を正しく入れなおしてください。	P.20
電池残量が少なくなった	新しい電池を入れてください。	P.20
寒さで電池の性能が一時的に低下した	電池をポケットに入れるなどして温めてからご使用ください。	—
カメラがスリープモード（待機状態）になっている	シャッターボタンやズームレバーを操作してください。	P.27
カメラ内が結露*した	電源を入れないでしばらくおき、カメラを乾燥させてから、電源を入れてください。	—
パソコンに接続している	パソコンと接続中、カメラは動作しません。	—

* 結露：外気が寒いときに空気中にある水蒸気が急速に冷やされて水滴になること。
カメラが冷えた状態で急に暖かい部屋などに入れた場合に発生します。

シャッターボタンを押しても撮影ができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズバリアを閉じている	レンズバリアを開けてください。	P.46
電源が入っていない	レンズバリアを開けてください。	P.27
フラッシュの充電が完了していない	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.59
ムービー撮影後、カードに書き込み中である	一度シャッターボタンから指を離し、オレンジランプの点滅が終わってから撮影してください。	P.18, 54
カードの容量がいっぱいになった	不要な画像を消すか、新しいカードを入れてください。大切な画像は消す前にパソコンに取り込んでください。	P.99, 112
撮影中やカードの書き込み中に電池が少なくなってきた（電池残量マークのみが点滅している）	新しい電池を入れてください。	P.20

メモリゲージがすべて点灯している	メモリゲージの一番上が消灯するまで、お待ちください。	P.18
プロテクトシールが貼られている	新しいカードを入れるか、カードのプロテクトシールをはがしてください。	P.24
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.134

フラッシュが発光しない

原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュが上がりきっていない	指などでフラッシュをおさえないよう注意してフラッシュを上げきって使用してください。	P.59
フラッシュが発光禁止に設定されている	フラッシュの設定を「発光禁止」以外に設定してください。	P.59
明るい被写体である	フラッシュを強制的に発光させたい場合は、フラッシュを「強制発光」に設定してください。	P.59
連写・ムービーが設定されている	連写・ムービーではフラッシュはご使用になれません。 ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.54, 67
パノラマ撮影をしている	パノラマではフラッシュはご使用になれません。 パノラマ撮影を解除してください。	P.69

液晶モニタが見にくい

原因	こうしましょう	参照ページ
液晶モニタの明るさの設定が適切でない	モードメニューの「液晶モニタ」で液晶モニタの明るさを調節してください。	P.118
太陽光の下である	太陽の光を手などでさえぎってください。	—

液晶モニタ上で再生できない

原因	こうしましょう	参照ページ
電源が入っていない	レンズバリアを閉じてから◎ボタンを押し、液晶モニタを点灯させてください。	P.28, 88
撮影モードになっている	◎ボタンをすばやく 2 回押すか、レンズバリアを閉じてから◎ボタンを押して、再生モードに切り替えてください。	P.88
カードに画像が記録されていない	液晶モニタに「画像が記録されていません」と表示されます。撮影してから再生してください。	—
カードに問題がある	「こんな表示がでたら」でご確認ください。	P.134
テレビに接続している	ビデオケーブルを接続しているときは液晶モニタは点灯しません。	P.93

画像に記録される日付が正しくない		
原因	こうしましょう	参照ページ
日時が設定されていない	日時を設定してください。お買い上げ時には日時の設定はされていません。	P.30
電池が少なくなってきた	電池が少なくなると、日時設定が解除されたり遅れたりします。新しい電池を入れて、日時を設定してください。	P.20, 31
電池を抜いて放置していた	電池を抜いた状態で数時間放置すると、日時設定が解除されます。もう一度、日時を設定してください。	P.20, 31

画像の消去・プロテクト・プリント予約ができない、カードのフォーマットができない		
原因	こうしましょう	参照ページ
プロテクトシールが貼られている	カードのプロテクトシールをはがしてから操作してください。はがしたシールは再使用しないでください。	P.24

設定した機能が電源を切ると元に戻ってしまう		
原因	こうしましょう	参照ページ
「設定クリア」の機能が「オン」に設定されている	「モードメニュー」の「設定タブ」にある「設定クリア」を「オフ」に設定してください。	P.115

●画像の仕上がりがよくない

撮影した画像が明るすぎる		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュの設定が「強制発光」になっていた	「強制発光」以外のフラッシュモードに設定してください。	P.59
被写体が明るすぎた	露出補正をマイナス（−）側に設定するか、カメラの向きを変えるなどの工夫をしてください。	P.80

撮影した画像が暗い		
原因	こうしましょう	参照ページ
フラッシュを指で覆ってしまった。	カメラを正しく構え、フラッシュを覆わないように気をつけてください。	P.42
撮りたいものがフラッシュ撮影範囲内より遠かった	フラッシュ撮影範囲内で撮影してください。	P.59
フラッシュが「発光禁止」になっていた	フラッシュを「発光禁止」以外に設定してください。	P.59
逆光状態で小さい被写体を撮影した	フラッシュを「強制発光」に設定するか、測光を「スポット」に設定して撮影してください。	P.59, 66
「連写」、「AF連写」で撮影した	「連写」、「AF連写」ではシャッタースピードが短くなるので、暗い場所では通常よりも暗く写るおそれがあります。ドライブメニューで「単写」に設定してください。	P.67

室内で撮影した画像の色がおかしい		
原因	こうしましょう	参照ページ
照明の色が影響した	照明に合わせてホワイトバランスを設定してください。	P.82
撮るものに白い部分がなかった	白いものを入れて撮影するか、フラッシュを「強制発光」に設定して撮影してください。	P.59
ホワイトバランスの設定を間違えた	照明に合わせて、もう一度ホワイトバランスを設定しなおしてください。	P.82

画像の一部が欠けてしまった		
原因	こうしましょう	参照ページ
レンズに指やストラップがかかってしまった	カメラを正しく構え、レンズに指やストラップがかからないように気をつけてください。	P.42
撮影距離が近かった	液晶モニタで実際に撮影される範囲を確認しながら撮影してください。	P.47
レンズが汚れていた	レンズの汚れを拭きとってください。レンズブロワー（市販）でレンズのほこりを吹き払って、レンズクリーニングペーパー（市販）でやさしく拭いてください。レンズを汚れたままにしておくとかびが生えることがあります。	—

ピントが合っていない		
原因	こうしましょう	参照ページ
シャッターボタンを押すときにカメラが動いてしまった（手ぶれ）	カメラを正しく構え、シャッターボタンを静かに押して撮影してください。	P.42
被写体との距離が近すぎた	被写体との距離は20cm以上離して撮影してください。	P.62
フラッシュが必要な暗い状況で「発光禁止」に設定していた	シャッタースピードが遅くなると手ぶれが起きやすくなります。三脚をご使用になるか、カメラをしっかり構えて撮影してください。	P.59

メニュー一覧

●撮影メニュー (Pオート／ポートレート／記念撮影／風景／夜景／セルフポートレートモード)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ドライブ	単写／連写／AF連写	P.67
		ISO感度	オート／100／200／400	P.78
		デジタルズーム	オン／オフ	P.57
		パノラマ※		P.69
		合成ツーショット		P.71
	画　像	ホワイトバランス	オート／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.82
		シャープネス	ハード／標準／ソフト	P.84
		コントラスト	ハイ／標準／ロー	P.86
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.112
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.115
		ピープ音	オン／オフ	P.111
		レックビュー	オン／オフ	P.114
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.119
		ピクセルマッピング		P.121
		モニタ調整		P.118
		日時設定		P.30
		言語／LANGUAGE	JAPANESE／ENGLISH	P.122
測光			ESP／スポット	P.66
画質モード			3:2／SHQ／HQ／SQ／TIFF	P.73
露出補正			－2.0／－1.5／－1.0／－0.5／±0／＋0.5／＋1.0／＋1.5／＋2.0	P.80

※撮影モードがセルフポートレートのとき、パノラマは選択できません。

●撮影メニュー (ムービーモード)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	撮　影	ISO感度	オート／100／200／400	P.78
		デジタルズーム	オン／オフ	P.57
	画　像	ホワイトバランス	オート／晴天／曇天／電球／蛍光灯	P.82
	カード	カードセットアップ	フォーマット／中止	P.112
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.115
		ピープ音	オン／オフ	P.111
		レックビュー	オン／オフ	P.114
		ファイル名メモリー	リセット／オート	P.119
		ピクセルマッピング		P.121
		モニタ調整		P.118
		日時設定		P.30
		言語／LANGUAGE	JAPANESE／ENGLISH	P.122
測光			ESP／スポット	P.66
画質モード			HQ／SQ	P.73
露出補正			−2.0／−1.5／−1.0／−0.5／±0／＋0.5／＋1.0／＋1.5／＋2.0	P.80

●再生メニュー (静止画)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オン／オフ	P.97
		回転表示	0°／＋90°／－90°	P.94
		プリント予約	1コマ予約／全コマ予約	P.124
	編　集	モノクロ作成	新規作成／中止	P.101
		セピア作成	新規作成／中止	P.102
		リサイズ	640×480／320×240／中止	P.103
		トリミング	新規作成／中止	P.104
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.100, 112
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.115
		ピープ音	オン／オフ	P.111
		インデックス表示	4／9／16	P.91
		モニタ調整		P.118
		日時設定		P.30
		言語／LANGUAGE	JAPANESE／ENGLISH	P.122
自動再生				P.92
情報表示				P.117
1コマ消去			消去／中止	P.99

●再生メニュー (ムービー)

トップメニュー	タブ	項目	選択肢	参照頁
モードメニュー	再　生	プロテクト	オン／オフ	P.97
	カード	カードセットアップ	全コマ消去／フォーマット	P.100, 112
	設　定	設定クリア	オン／オフ	P.115
		ピープ音	オン／オフ	P.111
		インデックス表示	4／9／16	P.91
		モニタ調整		P.118
		日時設定		P.30
		言語／LANGUAGE	JAPANESE／ENGLISH	P.122
ムービープレイ		ムービー再生	再生／コマ送り／中止	P.95
		インデックス作成	決定／再設定／中止	P.107
		ムービー編集	決定／再設定／中止	P.109
情報表示				P.117
1コマ消去			消去／中止	P.99

初期設定一覧

●撮影モードデフォルト一覧

フラッシュ	オート
AF	AF
セルフタイマー	オフ
撮影モード	P オート
ズーム	Wide
LCD	オフ
測光	ESP
画質モード	HQ
露出補正	±0
連写	単写
ISO感度	オート
デジタルズーム	オフ
パノラマ撮影	オフ
合成ツーショット	オフ
ホワイトバランス	オート
シャープネス	標準
コントラスト	標準
TIFF設定	1984x1488
SQ設定	640x480　標準

●再生モードデフォルト一覧

自動再生	オフ
レックビュー	オン
プリント予約	オフ
情報表示	オフ
プロテクト	オフ
クローズアップ再生	オフ
回転再生	0°
インデックス分割コマ数	9

●その他のデフォルト一覧

ピープ音	オン
設定クリア	オン
ファイル名メモリー	リセット
言語／LANGUAGE	JAPANESE

撮影モード別の設定可能な機能

撮影モード／機能	Pオート	ポートレート	記念写真	風景	夜景	セルフポートレート	ムービー
マクロ	○	○	○	○	○	○	○
∞固定	○	○	○	○	○	○	○
フラッシュ	○	○	○	○	○	○	×
セルフタイマー	○	○	○	○	○	○	○
ズームレバー	○	○	○	○	○	W(広角)固定	○
バーチャルダイヤル	○	○	○	○	○	○	○
測光	○	○	○	○	○	○	○
画質モード	○	○	○	○	○	○	○※1
露出補正	○	○	○	○	○	○	○
連写／AF連写	○	○	○	○	×	○	×
ISO感度	○	○	○	○	○	○	○
デジタルズーム	○	○	○	○	○	×	○
パノラマ	○	○	○	○	○	○※2	×
合成ツーショット	○	○	○	○	○	○	×
ホワイトバランス	○	○	○	○	○	○	○
シャープネス	○	○	○	○	○	○	×
コントラスト	○	○	○	○	○	○	×
カードセットアップ	○	○	○	○	○	○	○
設定クリア	○	○	○	○	○	○	○
ビープ音	○	○	○	○	○	○	○
レックビュー	○	○	○	○	○	○	○
ファイル名メモリー	○	○	○	○	○	○	○
モニタ設定	○	○	○	○	○	○	○
日時設定	○	○	○	○	○	○	○

※1 ムービーは、TIFF、SHQ、3:2の画質モードは設定できません。

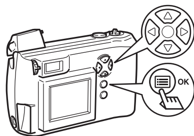
※2 パノラマ撮影はできません。

Changing the display language（言語／LANGUAGE）

This function lets you change the language in which menus and messages are displayed on the monitor from Japanese to English.

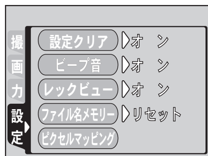
1 Display the top menu in the shooting mode.

- Open the lens barrier fully.
- Press (OK).

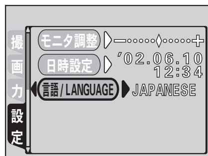


2 Press ▷ to select [モードメニュー].

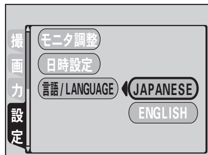
3 Press △ ▽ to select the [設定] tab, then press ▷.



4 Press △ ▽ to select [言語／LANGUAGE], then press ▷.
This item is in the [設定] menu on the next page.



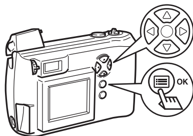
5 Press △ ▽ to select [ENGLISH], then press (OK).
To close the menu, press (OK) again.



●To change the language from English to Japanese

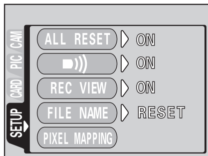
1 **Display the top menu in the shooting mode.**

- Open the lens barrier fully.
- Press (≡)OK .



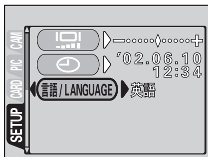
2 **Press ▷ to select [MODE MENU].**

3 **Press △ ▽ to select the [SETUP] tab, then press ▷.**



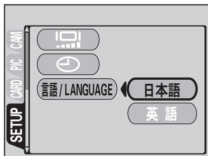
4 **Press △ ▽ to select [言語／LANGUAGE], then press ▷.**

This item is in the [SETUP] menu on the next page.



5 **Press △ ▽ to select [日本語], then press (≡)OK .**

To close the menu, press (≡)OK again.





- The language setting remains even when the lens barrier is closed.
- Language can also be set from the playback mode.

List of menus

● **Shooting mode menus (PROGRAM AUTO/PORTRAIT/LANDSCAPE - PORTRAIT/LANDSCAPE/NIGHT SCENE/ SELF PORTRAIT)**

Top menu	Tab	Item	Setting	Ref. Page
MODE MENU	CAMERA	DRIVE	/ / AF	P.67
		ISO	AUTO/100/200/400	P.78
		DIGITAL ZOOM	ON/OFF	P.57
		PANORAMA*		P.69
		2 IN 1		P.71
	PICTURE	WB	AUTO/ / / /	P.82
			HARD/NORMAL/SOFT	P.84
			LOW/NORMAL/HIGH	P.86
	CARD	CARD SETUP	YES/NO	P.112
	SETUP	ALL RESET	ON/OFF	P.115
			ON/OFF	P.111
		REC VIEW	ON/OFF	P.114
		FILE NAME	RESET/AUTO	P.119
		PIXEL MAPPING		P.121
				P.118
				P.30
		言語／LANGUAGE	日本語/英語（JAPANESE/ENGLISH）	P.122
ESP/			ESP/	P.66
			3:2/SHQ/HQ/SQ/TIFF	P.73
			-2.0/-1.5/-1.0/-0.5/±0/+0.5/ +1.0/+1.5/+2.0	P.80

*PANORAMA cannot be selected in self-portrait mode.

●Shooting mode menus (MOVIE)

Top menu	Tab	Item	Setting	Ref. Page
MODE MENU	CAMERA	ISO	AUTO/100/200/400	P.78
		DIGITAL ZOOM	ON/OFF	P.57
	PICTURE	WB	AUTO/ / / /	P.82
	CARD	CARD SETUP	YES/NO	P.112
	SETUP	ALL RESET	ON/OFF	P.115
			ON/OFF	P.111
		REC VIEW	ON/OFF	P.114
		FILE NAME	RESET/AUTO	P.119
		PIXEL MAPPING		P.121
				P.118
				P.30
		言語／LANGUAGE	日本語/英語（JAPANESE/ENGLISH）	P.122
ESP/			ESP/	P.66
			HQ/SQ	P.73
			-2.0/-1.5/-1.0/-0.5/±0/+0.5/ +1.0/+1.5/+2.0	P.80

●Playback mode menus (Still picture)

Top menu	Tab	Item	Setting	Ref. Page
MODE MENU	PLAY		ON/OFF	P.97
			0°/+90°/-90°	P.94
			/	P.124
	EDIT	BLACK & WHITE	BLACK & WHITE/CANCEL	P.101
		SEPIA	SEPIA/CANCEL	P.102
			640×480/320×240/CANCEL	P.103
			/CANCEL	P.104
	CARD	CARD SETUP	ERASE/ FORMAT	P.100, 102
	SETUP	ALL RESET	ON/OFF	P.115
			ON/OFF	P.111
			4/9/16	P.91
				P.118
				P.30
		言語／LANGUAGE	日本語/英語（JAPANESE/ENGLISH）	P.122
				P.92
INFO				P.117
ERASE			YES/NO	P.99

●Playback mode menus (Movie)

Top menu	Tab	Item	Setting	Ref. Page
MODE MENU	PLAY	(protect icon)	ON/OFF	P.97
	CARD	CARD SETUP	(all erase icon) ERASE/ (format icon) FORMAT	P.100, 112
	SETUP	ALL RESET	ON/OFF	P.115
		(beep icon)	ON/OFF	P.111
		(index display icon)	4/9/16	P.91
		(monitor brightness icon)		P.118
		(clock icon)		P.30
		言語／LANGUAGE	日本語/英語（JAPANESE/ENGLISH）	P.122
MOVIE PLAY		MOVIE PLAYBACK	PLAYBACK/FRAME BY FRAME/EXIT	P.95
		INDEX	OK/RESET/CANCEL	P.107
		EDIT	OK/RESET/CANCEL	P.109
INFO				P.117
(erase icon) ERASE			YES/NO	P.99

The English manual for this camera is available for purchase within Japan.
For details, ask at the customer center or camera retailer.

アフターサービス

● 保証書はお買い上げの販売店からお渡しいたしますので「販売店名・お買い上げ日」等の記入されたものをお受け取りください。もし記入もれがあった場合は、ただちにお買い上げの販売店へお申し出ください。また保証内容をよくお読みの上、大切に保管してください。

● 本製品のアフターサービスに関するお問い合わせや、万一故障の場合はお買い上げの販売店、または当社サービスステーションにご相談ください。取扱説明書にしたがったお取扱いにより、本製品が万一故障した場合は、お買い上げ日より満1ヶ年間「保証書」記載内容に基づいて無料修理いたします。

● 保証期間経過後の修理等については原則として有料となります。

● 当カメラの補修用性能部品は、製造打ち切り後5年間を目安に当社では有しております。したがって本期間中は原則として修理をお受けいたします。なお、期間後であっても修理可能な場合もありますので、お買い上げの販売店、または当社サービスステーションにお問い合わせください。

● 本製品の保証、修理、サービスは日本国内でのみ有効です。本製品は日本国内専用のため、海外では修理はできません。万一、海外で故障・不具合が生じた場合は、日本国内の当社サービスステーションまでご依頼ください。

● 本製品の故障に起因する付随的損害（撮影に要した諸費用、および撮影により得られる利益の喪失等）については補償しかねます。また、運賃諸掛かりはお客様においてご負担願います。

● 修理品をご送付の場合は、修理個所を指定した書面を同封して十分な梱包でお送りください。また控えが残るよう宅急便または書留小包のご利用をお願いします。

仕様

形式	：デジタルカメラ（記録・再生型）
記録方式	
静止画	：デジタル記録、TIFF（非圧縮）、JPEG（DCF準拠）、DPOF対応
動画	：QuickTime Motion JPEGに準拠
記録媒体	：スマートメディア（4/8/16/32/64/128MB） ※2MB、5Vカードは使えません。
記録画素数	：1984×1488ピクセル（TIFF/SHQ/HQ） 1984×1312ピクセル（TIFF/高画質/標準） 1600×1200ピクセル（TIFF/SQ） 1280×960ピクセル（TIFF/SQ） 1024×768ピクセル（TIFF/SQ） 640×480ピクセル（TIFF/SQ）
記録コマ数	
16MBカード使用時	：1枚（TIFF：1984×1488） 7枚（SHQ：1984×1488） 21枚（HQ：1984×1488） 32枚（SQ：1600×1200 標準）
カメラ部有効画素数	：300万画素
撮像素子	：1/2.5型（インチ）CCD固体撮像素子、334万画素（総画素数）
レンズ	：オリンパスレンズ5.8～16.2mm、F2.9～4.4、6群8枚 （35mmフィルム換算36～100mm相当）
測光方式	：撮像素子によるデジタルESP測光方式、スポット測光
絞り	：W: F2.9、5.6 T: F4.4、8.6
シャッター	：1/2～1/1000秒（夜景モードでは2秒）
撮影範囲	：0.8m～∞（通常） 0.2m～0.8m（マクロ撮影時）
ファインダ	：光学実像式ファインダ（ターゲットマーク）
液晶モニタ	：1.8型（インチ）TFTカラー液晶（低温ポリシリコン）、61000画素

フラッシュ充電時間　：約9秒
コネクタ　：DC入力端子、USB接続端子（mini-B)、ビデオ出力端子（NTSC方式）
自動カレンダー機能　：2000～2099年の範囲で自動修正
使用環境
　温度　：0～40℃（動作時）／－20～60℃（保存時）
　湿度　：30～90％（動作時）／10～90％（保存時）
電源　：単 3 アルカリ電池／リチウム電池／ニッケル水素電池／ニッカド電池を4本使用
あるいはリチウム電池パックCR-V3（当社製LB-01）2個
または専用ACアダプタ
単 3 マンガン電池は使用できません。
大きさ　：幅117.5 mm×高さ66.0 mm×厚さ49.5 mm（突起部を除く）
重さ　：240g（電池／カード別）

外観・仕様は改善のため予告なく変更することがありますので、あらかじめご了承ください。

索引

や行

ら行

OLYMPUS

オリンパス光学工業株式会社

〒 163-8610　東京都新宿区西新宿 1 の 22 の 2　新宿サンエービル

●ホームページによる情報提供について

製品仕様、パソコンとの接続、OS 対応の状況、Q&A などの各種情報を当社のホームページでご提供しております。
オリンパスホームページ（http://www.olympus.co.jp/）から「サポート」→「デジタルカメラ／プリンタ関連」へ進み、ご利用ください。

●電話等でのご相談窓口

フリーダイヤル



0120-084215

携帯電話・PHS からは 0426-42-7499

FAX 0426-42-7486

調査等の都合上、回答までにお時間をいただく場合がありますので、ご了承ください。

営業時間　9：30 〜 17：00（土・日曜、祝日および弊社休業日を除く）

国内サービスステーション（修理受付窓口）

東　京	〒 101-0052	千代田区神田小川町 1 の 3 の 1　小川町三井ビル (オリンパスプラザ内)	Tel.03(3292)1931
札　幌	〒 060-0034	札幌市中央区北 4 条東 1 の 2 の 3　札幌フコク生命ビル	Tel.011(231)2320
仙　台	〒 981-3133	仙台市泉区泉中央 1 の 13 の 4　泉エクセルビル	Tel.022(218)8421
新　潟	〒 950-0087	新潟市東大通り 2 の 4 の 10　日本生命新潟ビル	Tel.025(245)7337
名古屋	〒 460-0003	名古屋市中区錦 2 の 19 の 25　日本生命広小路ビル	Tel.052(201)9571
大　阪	〒 542-0081	大阪市中央区南船場 2 の 12 の 26　オリンパス大阪センター	Tel.06(6252)6991
広　島	〒 730-0013	広島市中区八丁堀 16 の 11　日本生命広島第 2 ビル	Tel.082(228)3821
福　岡	〒 810-0004	福岡市中央区渡辺通 3 の 6 の 11　福岡フコク生命ビル	Tel.092(761)4466

※ 土・日曜、祝日および年末年始は原則として休業させていただきます。オリンパスプラザ内の東京サービスステーションは土曜も営業しております。

1AG6P1P1350--　VT367402